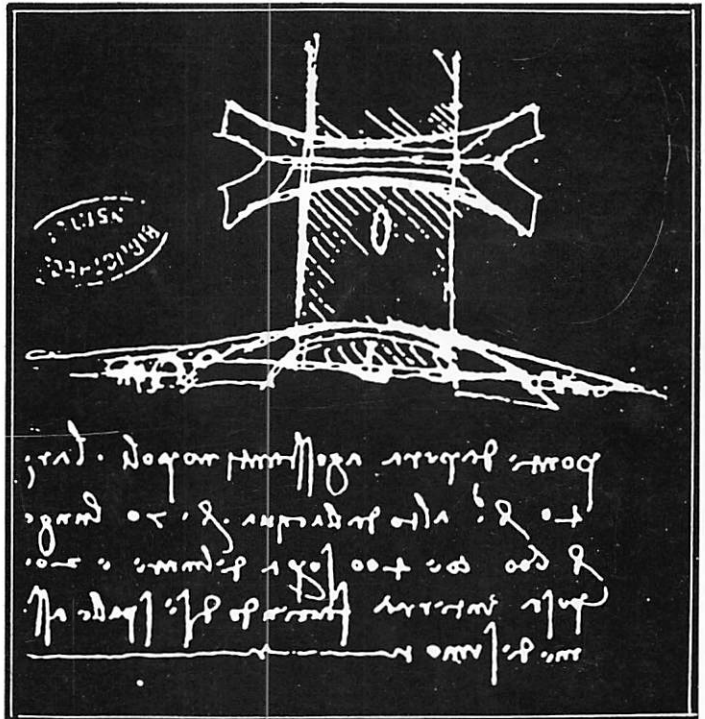


KABSE

九州橋梁・構造工学研究会会報
Kyushu Association for
Bridge and Structural Engineering

創刊号

Jun. 1984



目 次

巻頭言	会 長 小 坪 清 真	1
祝 詞	会報創刊号の発刊に寄せて	
	吉 村 虎 蔵	2
	乙 藤 憲 一	3
設立総会・特別講演会の概要		4
設立までの歩み	幹 事 長 太 田 俊 昭	6
準備会の活動報告		7
会に望む	本 郷 辰 己	8
	崎 元 達 郎	8
	北之園 宏	9
アンケート調査	会報編集小委員会	10
KABSEシンボルマークについて	河 地 知 木	14
工事紹介・報告		
(1) 八木山バイパス (一般国道 201号)	日本道路公団福岡建設局	15
(2) 一般国道 263号道路改良工事 (三瀬トンネル)	佐賀県、福岡市、佐賀県道路公社	15
(3) 耶馬溪ダム	建設省九州地方建設局	16
(4) 円座橋上部工事 (橋梁整備事業)	大 分 県	17
(5) 川副大橋	佐 賀 県	17
(6) 九州縦貫自動車道 (八代～人吉)	日本道路公団福岡建設局	18
(7) 日南ダム	宮 崎 県	19
(8) 鹿児島市河頭浄水場第三配水池	鹿児島市	19
(9) 荒谷橋	山 口 県	20
ほのぼの随筆	長寿茶碗のご利益	21
表紙について	レオナルド・ダ・ビンチのゴールデン・ホーン架橋計画 山本宏	22
会務報告	事業部	25
	定例会小委員会	25
	研究連絡小委員会	25
	論文集編集委員会	26
	会報編集小委員会	26
	事務局	26

巻頭言



会長
小坪 清真

九州地区の官界、業界ならびに学界の技術者・研究者の技術的交流の場として、かねてより待望されてきました「九州橋梁・構造工学研究会」がここに発足するに至りましたことは誠に御同慶に堪えません。これも偏に、御多忙な業務や研究のかたわら、研究会の組織作りに数年来取り組んでこられました準備会世話人の方々の御尽力に負うことは申し上げるまでもありませんが、さらにこの会の趣旨に深い御理解と御賛同を賜わり、暖かい御支援をいただきました官・業・学各界の諸先輩のおかげと深く感謝いたしております。

この研究会がその目的にもうたっておりますように、会員相互の技術知識の向上と親睦を図り、土木工学の発展に寄与するにいたるまでに実績を上げますには、今後格段の努力が要求されますが、本研究会誕生直後のきわめて重要な時期に会長に選出されました責務の重大さを痛切に感じますとともに、その任に堪え得るかを危惧いたしますが、幸いにも各界各層で活躍されている澁刺とした若手技術者・研究者を多く会員に迎えておりますので、必ずや所期の目的を達成し得るものと確信いたしております。しかし、何分にもようやく歩き始めたばかりの研究会でありますので各界の諸先輩のさらなる御支援と御協力を重ねてお願い申し上げます。

従来、九州地区に限らず、官界と業界とは互に密接な関係に結ばれておりますが、官・業界と学界とは特に九州地区におきまして技術的交流は十分でなかったように思われます。土木学会の研究発表会に例をとりましたが、特に構造工学部門におきましては参加者はほとんど大学人で占められています。これにはいずれの側にもいろいろの理由がありましようが、最も大きな理由の一つは、学界からの研究発表の内容がアカデミックに過ぎ、計画・設計・施工の実務に直ちに利用しにくく、魅力に乏しいものであることでありましよう。また、官・業界におきましても、過去における産学共同への批判の後遺症から、大学の敷居が高く感じられたことも、官業界と学界の間の疎遠の大きな原因と思われまします。しかし、かつて大学で吹き荒れた嵐も今はおさまり、大学と産業界との共同研究さえ推奨される今日において、官界・業界・学界の間の垣根が取り除かれ、相互に利用し合い、自由な討議と研究を通じて会員相互の技術知識の向上を図ることができれば、土木工学の発展に寄与するところ大なるものがあるかと確信します。「九州橋梁・構造工学研究会」がその橋渡しとなることを期待する次第であります。

(九州大学工学部教授)

◇ 祝辞

会報創刊号の発刊に寄せて

有明工業高等専門学校校長

吉村 虎蔵

「業界・官界・学界の技術者が自由な立場で土木構造全般にわたる調査・研究・開発に参加協力し、技術の向上と親睦をはかると共に土木工学の発展に寄与する」を目的として本会が発足し、このたび会報の創刊号発刊の運びとなりましたことを心から慶び申し上げます。

道路公団の天草架橋工事が始った頃、それは20年以上も前のことでありますが当時既に関西地区では関西橋梁研究会が活発な活動をしていたことから九大・熊大土木教室の有志の発起により「構造談話会」の名称で業・官・学の方々の集まりがはじまり天草架橋竣工頃まで3年間15回程度の会合が続ききました。その会合はその後、航空・造船・機械・土木・建築などの構造関係者の集まりとして現在82回の会合を重ねる「西日本構造解析研究会」に吸収された形となっています。その研究会に加えて、この度の「九州橋梁・構造工学研究会」の発足とこれまで見られなかった会報の発刊は、九州地区土木構造関係者が久しく待望して来たものであります。

長崎・諫早・秋月・西田・高麗・壘台・通潤などの名をもつ九州固有の古い石アーチ橋もさることながら、戦後日本の橋梁発展のために多くの面で先駆的役割を果たしてきたのは九州ではないでしょうか。すなわち戦後本格的鋼橋の第1号として西海橋、本格的吊橋の第1号の若戸大橋、張出工法PC橋の先駆として夕葉橋・美々津大橋・天草3・4号橋・名

護屋大橋・外津橋・橋橋、海を渡る橋の第1号として天草架橋、PWSケーブル吊橋関門橋とこれに至るまでの先駆として脇瀬橋など、ASケーブル吊橋の先駆平戸大橋をはじめ、その他多くの橋を種々の観点から先駆的橋梁として挙げるができます。

このように多くの先駆的橋梁をもつことは九州の誇りではありますが、永久構造物と称される土木構造物は、永い耐用年数を経た後にその評価がなされたものであり、また架橋に至るまで10年20年もの永い年月、地域の開発計画・架橋計画・推進運動にあたられた多くの先人の尽力のあることも、決して忘れてはならないと考えます。

日本の技術が国際的に今後生き残るためには「新しい技術の開発と創造」による外に道はないとは多くの識者の主張するところではありますが、それは尖端技術のみならず伝統的技術についても同じことでもあります。本研究会が常に新しい材料・工法・構造形式・架設法・構造解析理論などの開発と応用の外、維持管理、地域開発などをも含めて、長期的展望と広い視野をもった調査・研究・開発の問題を取上げ業官学界の協同と会員相互の心暖まる協力態勢により数々の成果を挙げ、地域の発展と土木工学の発展に寄与することを期待し、創刊号発刊のお祝の詞といたします。

◇祝辞

会報創刊号の発刊に寄せて

(株)日本構造橋梁研究所
専務取締役

乙 藤 憲 一

九州橋梁・構造工学研究会では、昨年11月の発刊にひきつづいて、このたび、会報を発行されることになった。関係者にとって誠に喜ばしいことであり、重ねて心からお祝いを申し上げます。

いつか、何かの委員会のあとだったか、同席の太田俊昭教授から、このような研究会をつくりたいとお聞きして、たいへん結構なことだ、活発に動いている関西の橋梁委員会にも負けないような立派な会を作っていただきたい、と大いに談じ合ったことが思い出される。また、わたくしにとっては、母校である九大が中心となって、ふるさと福岡の地に、このような会が生まれ、発展していくことは、非常にうれしいことであり、仕事柄、心強さとともに安心感さえ覚える。

九州の地は、眼鏡橋で代表される大陸伝来の石橋建造技術にはじまり、戦後の大川橋（筑後川河口横断）、住之江橋（軟弱地盤基礎）、日向大橋（工場全溶接）、西海橋（プレストレス応力調整鋼製アーチ）、若戸大橋（本邦初の本格的近代吊橋）、天草五橋（地形条件に合った橋梁型式）、そして関門橋（PPWSケーブル、補剛トラスの逐次剛結工法吊橋）とつづいて、一連の長大橋建設技術を発達させ、現在工事中の本四連絡橋建設へと進展させた、橋梁建設技術とは誠に深い因縁関係にある土地柄である。そして、これらの橋梁には、その時期ある期間、東洋一、世界一をはじめ何らかのタイトルを保持したものが数多く、また、これら橋梁のほとんどが九州で育った人材とその技術によって建設されたことも

意義が深い。

いっぽう、日本全体の橋梁技術について考えると永久橋架換工事から高度成長期を経て、本四連絡橋など、確かに超大型橋をこなし得る実力は付いたと考えられるが、別の一面から見ると、鋼橋においても、PC橋においても外来の技術がその基幹をなしており、わが国本来の、あるいは独自の技術は非常に少なく、世界に進出している他の先端技術にくらべると、やはり淋しさを感じざるを得ない。

また、もひとつの問題として構造物の美観の問題がある。これまでの追いつけ、追い越せ、少しでも安いものを一橋でも多く、という時代はすぎで、合理的で美しい構造物を後世に残したいという希望が強くなっている。

またもひとつ、世界的な低成長下では、新規建設技術と平行して、既にある構造物の維持管理と再生改造についても真剣に考える必要がある。地道な仕事で若い人達には嫌われ勝ちであるが、維持管理を考えた設計という面からも非常に重要なことであるといえる。

21世紀に向って、地方の時代といわれるこの時期に、本研究会の持つ役割は大きい。趣意書にある九州土木界のためだけではなく、日本のため、そして将来は世界のために貢献できるようにじっくり構えて、研究と開発に取り組んでいただきたい、と切に希望する。

最後に、もういちど心から“おめでとう、しっかり”と申し上げたい。

設立総会・特別講演会の概要

〔設立総会〕

昭和58年11月11日、福岡市東区の九州大学同窓会館において設立総会が開催され、会則、役員人事、昭和58年度事業計画および予算について審議し、いずれも原案どおり承認可決された。選出された昭和58年度の役員・顧問および相談役は次の方々である（敬称略）

- 会長 小坪清真（九州大学教授）
- 副会長 三池亮次（熊本大学教授）
- 監事 瀬戸弘海（鹿島建設㈱取締役九州支店長）
- 同 甲斐栄一（西松建設㈱常務取締役九州支店長）
- 幹事長 太田俊昭（九州大学教授）
- 顧問 西原 巧（建設省九州地方建設局長）
- 同 寺尾 健（運輸省第4港湾建設局長）
- 同 鳥居敏則（日本国有鉄道下関工事局長）
- 同 今村浩三（日本道路公団福岡建設局長）
- 同 田中美三（福岡県土木部長）
- 同 和田裕之（福岡市助役）
- 同 高牟田昭夫（北九州市都市計画局長）
- 同 佐藤幸甫（福岡北九州高速道路公社理事長）
- 相談役 高橋信夫（建設省九州地方建設局企画部長）

会長

小坪 清真



副会長 三池 亮次



監事 瀬戸 弘海



監事 甲斐 栄一



幹事長 太田 俊昭

相談役 寺阪 勝（福岡県企業管理者）

同 青木謙三（九州電力㈱常務取締役）

相談役 筒井寅吉 (博多港開発㈱代表取締役副社長)

同 水田権作 (富士ピーエスコンクリート㈱専務取締役福岡支店長)

相談役 田代信雄 (西日本技術開発㈱代表取締役社長)

同 西山 徹 (日本橋梁建設協会専務理事)

[特別講演会]

設立総会終了後、同所において社団法人土木学会西部支部との共催による「構造物の計画・調査・施工に関する講演会」が催された。九州内外の官・学・業界より多数の参加があり、非常に盛況であった。

講演題目および発表者は次のとおりである(敬称略)

1. 九州地方建設局の道路事業の展望

福岡北九州高速道路公社理事長

(前建設省九州地方建設局長)

佐藤 幸甫

2. 軟弱地盤上の港湾構造物について

一第4港湾建設局管内の事例を中心として一
運輸省第4港湾建設局長 寺尾 健

同 次長 喜田健一郎

同 下関調査設計事務所長
木暮健一郎

3. 九州の鉄道の将来について

一新幹線鉄道を中心として一
日本国有鉄道下関工務局長 鳥居 敏則

4. 本州四国連絡橋事業と技術開発

本州四国連絡橋公団常任参与 下川浩資

同日夕刻よりホテル・ステーションプラザにおいて懇親パーティーが催された。各界より多数の参加者があり、非常に盛況であった。

開会のあいさつをす
る
土木学会西部支部長
田中 一美氏



佐藤 幸甫氏



木暮健一郎氏



鳥居 敏則氏



下川 浩資氏

設立までの歩み

幹事長 太田俊昭

昭和56年6月、産・官・学三界の有志相集って発足しました本研究会設立準備会は、その後2年余にわたり設立準備を重ねる一方、研究発表・学習会などを行って、メンバー相互の知識の向上、伝達を図って参りました。

この準備期間の初期に描きました本研究会の背写真は、(1)準備会メンバー数程度の小規模な研究会として発足する。(2)メンバーのほとんどは30才台と若く、10年後、20年後に照準を合わせた確実な活動をしていく、などでありました。

ところが、本会発足に向けて関係各界の責任ある方々にご相談申し上げましたところ、思いがけなくも積極的なご支援・ご指導をいただきました。加えて九州・山口地区は言うに及ばず関東・関西在住の多くの技術者・研究者の方々が個人会員として積極的に本会の活動にご参加いただけることになり、会員数・財政規模ともに準備会の予想をはるかに上回る規模で発足することができました。これはひとえに皆様方のご厚情あふれるご支援の賜物と深く感謝しております。それと共に、本会に寄せられる期待がいかに大きいものであるかの認識を新たにされた次第であります。

このような事情により、会則、機構など準備会で用意しましたものに不備な点が多いものと危惧しておりますが、小坪会長のもとで、皆様方の御意に添うよう今後とも努力して参る所存であります。

ともあれ、若い人々の活動の場がこうして広く各界に認知されて発足いたしましたことは、非常に喜ばしく、今後の若い人々の活躍が大いに期待されます。

さて、設立総会では、はからずも運営委員長の大役を仰せつかり、身の引き締る思いでありました。皆様のご期待に添いうるか否かの不安もございますが、準備会で積極的にご協力いただいた若い人達とまた一緒にやらせていただくという意味でお引き受け致しました。

運営委員会の活動は、多岐にわたるため、事務局を含めて8つの専門小委員会に分けました。そして各運営委員には、いずれかの小委員会に属して、専門的にその活動を分担していただくことにしております。個々の小委員会の活動内容につきましては、小委員長各位から紹介があると思いますので、ここでは割愛させていただきますが、各運営委員の責任ある献身的な態度に接するとき、本会の前途が洋々たるものであることが確信されます。

最後になりましたが、準備会の段階から本会に直接・間接にご支援いただきました多くの方々に衷心よりお礼申し上げます。本会が九州・山口地区の土木界に寄与できる会に若い人達の手で育っていくことを皆様と共に祈念してやみません。今後とも何卒ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

(九州大学工学部教授)

準備会の活動報告

昭和56年6月12日、20名の官・民・学の若手土木技術者が集まり、第1回の準備会が開かれた。その後、この準備会は、本会の発会式である昭和58年11月11日まで、約2～4ヶ月に1回の割合で合計12回程開かれた。

この会は、初期において将来多くの方々に参加していただく会を目標にしつつも、準備会の構成メンバーを中心とした活動を行ない、準備会の基礎作りをめざすこととなった。準備会の活動としては、将来の研究会の設立をめざして研究会設立小委員会（委員長 関氏）が作られ、研究会の名称、会則、活動内容等がいろいろ検討された。また、学習会開催小委員会（委員長 彦坂氏）では、準備会メンバー

の勉強会として、限界状態設計法のテーマで合計3回の講習会が開かれると共に、研究連絡小委員会（委員長 後藤氏）では分科会活動として、会のメンバーで実現出来る研究テーマの内容説明会などが実施された。58年度においては、準備会の活動は主として研究会設立のための準備が中心となり、発会式、組織、講演会、懇親会等各メンバーで分担し、発会式に臨んだ。

合計12回の準備会によって、官・民・学によるメンバーの横のつながりが出来ると共に、無事研究会発足へと発展していき、初期の目的を十分達することが出来た。この間、お忙しい仕事の中、準備会のメンバーとして活動していただきました皆様、および準備会の時期から現在の運営委員会まで、会合の場を提供して下さったオリエンタルコンクリート 勝福岡支店の方々に深く感謝いたします。

＜ミニ九州土木史＞

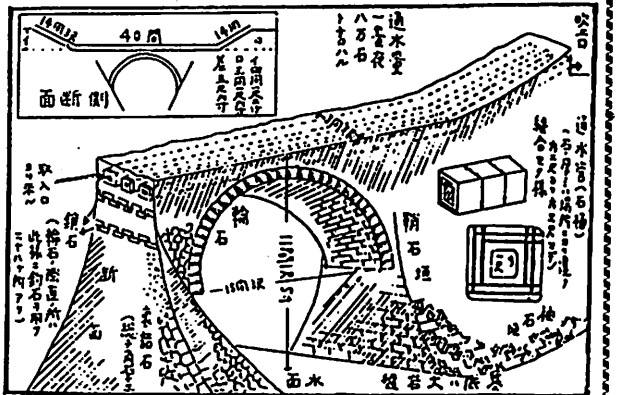
布田保之助と肥後の石工

天保年間、益城郡矢部手永の惣庄屋に任ぜられた布田保之助は、水利悪く荒地であった白糸村台地に、約5km上流から灌溉用水路を引くことを計画、藩の許しを得て嘉永5年（1852年）起工、安政元年（1854年）7月完成させた。途中、轟川を渡る際、導水石橋を築造、逆サイホン式石造水管で対岸へ水を送った。これが図に示す通潤橋である。

（通潤橋解剖図）

同橋を築いた石工の棟梁は矢部小野尻村の宇市であったが、実際の工事は宇市の弟で、架橋の才に秀でた八代種山村の丈八を中心に進められた。丈八はその功が認められて橋本姓を許され、後に名も橋本勘五郎と改めた。勘五郎が熊本、東京で多くの名橋を築いたのは周知の通りである。

宇市、勘五郎ともに、鹿児島市＜甲突五橋＞の名工・岩永三五郎に教えを受けたといわれている。



会に望む

産・官・学界からの希望およびアンケート調査報告

産界から

本郷辰己

かって九州地区は、西海橋、若戸大橋、関門トンネル等に代表される如く、当時における土木技術の最先端を行く地域であった。ここで培われた技術、養成されたエンジニアが続々として全国に飛躍し、新技術の発展のために貢献した。

時は移り、今や管内においても福岡市の地下鉄、北九州市におけるモノレール、そして全域的に展開される高速道路の建設等、土木事業の最盛期を迎えている。また将来の課題として海洋資源の開発など新しい資源、エネルギーの開発が社会的要請として求められている。

こうした社会の要請、時代の背景に答えるためには、官民あげて更に強固な連繫、総合的な対応が必要だと痛感される。そうした意味合いにおいて官・業・学界からなる九州橋梁、構造研究会の発足は、誠に時宜を得たものであり今後の活躍が大いに期待される故所である。私共コンサルタント業界にとっても、新しい課題、人材の育成に取組む絶好のチャンスであると感謝する次第であります。

今後、会の運営、活動に当たり、テーマの選定、寄合世帯の統轄、資金の調達等、幾多の問題が介在することでしょうが、初志貫徹に向って邁進されんことをお願い申し上げます。

(パシフィックコンサルタンツ(株)福岡支社長)

学界から

崎元達郎

本会の特長は、民官学の協同作業を基本とする点であるから、まず、相互間の情報交換に期待したい。欧米の大学人と接して痛感するのは、大学人としての自分の実務的視点、知識の欠如である。例えば、ドイツの大学で教授職につくには、何年かの実務経験と能力が必要であるといわれており、その為の研修制度もあると聞く。日本の大学の制度を改変するのは、個人の努力だけでは何ともならないが、本会は、個人あるいは、グループの努力で、少なくとも情報交換という点では、この種のことが可能であり、

私自身大いに期待している。したがって、ここで官民の会員の皆様に、この点での御教示、御鞭撻をお願いしておきたい。

もうひとつ期待したいことは、本会が土木のイメージアップと守備範囲の拡大に少しでも貢献してほしいということである。昨今の本学土木系学科に入ってくる学生を見ていると、まがりなりにも土木の仕事をしたいと思ってくる学生は全体の1/3にも満たない。このままでは土木業界も土木系学科もじり貧で夢も希望もなくなる。この事実の背景はかなり根深く問題は深刻であり、土木界全体が総力を挙げて打開せねばならない問題である。その為のひとつの方策として、本会では、ひとつの橋を造るという

場合にしても、何か新規性のあるモニュメント的な構造にする議論をするとか、今まで土木の領域でないと考えられていた範ちゅう（境界領域）の構造を手がけるといったフロンティアスピリットが育つ土壌を作ってはほしい。具体的には、本会が、新しく生れる技術的諸問題を解決する基盤になることによって、新しい仕事を可能にし、土木のイメージアップと守備範囲の拡大に少しでも貢献できないだろうかと思っている。

官界から

北之園 宏

80年代にはいり経済社会は低成長安定の中であり、周知のように公共事業費も、数年来低成長を余儀なくされ、将来においても、それほど期待しがたい状況に置かれています。しかしながら、社会資本整備の需要は、まだまだ大きく根強いものがあり、国民のニーズにいかに応えていくか、他の関係官庁におかれても、日夜腐心されていることと思われま

す。このような状況の中で、いわゆる「土木行政」において土木構造物を造り、維持管理していくに当っては、合理性、効率性が益々重要になっているものと思われま

す。このためには、それなりの「技術」によって対応するのも1つの方法であり、「官」としても、コストの問題を解決しつつ、新しい土木材料、土木技術を生み出すことが重要な課題となっているように思われます。

一方、技術の世界では、電子工学をはじめとする先端技術によって、ME（マイクロ・エレクトロニクス）、新素材、バイオテクノロジー等の目覚ましい技術革新が見られ、従来のエネルギー集約型から知識集約型へと飛躍的な転換を遂げつつある時代であり、ハードの複合化の時代であります。

「会に望む」という題で原稿を求められたが、「我々一人一人が会を造っていくのである」という気持を持つことが重要であろう。J. F. ケネディの表現を借りれば、「会が諸君のために何をしてあげられるかではなくて、我々が会のために何ができるか」が問われなければならない。その意味で会員一人一人の努力の積重ねによって、本会がrippanna会に育つよう願っているし、小生も努力したいと考えている。

（熊本大学工学部土木工学科助教授）

土木工学の分野でもこうした技術革新がなされねばならない時代を迎えているように思われます。土木工学自体どのような技術革新がなされるのか、あるいは他の分野の先端技術の展開に対してどのような係り合いを持ち、さらにはどのような役割を果たしうるのか、興味あるところであります。

このようなとき、本会において九州における「産」「官」「学」の人々が交流しあうことによってこのような問題等に独創的に対処されることは非常に有意義なことであり、九州の土木工学界が今後の土木工学の分野で先導的な役割を果たされることを期待したいと思います。

また、行政においても、先述したように「技術」が重みを増し、「官」に働く土木技術者一人一人が「技術」の向上・発展に心がけねばならないわけにも拘らず、ともすれば日常において、学際的な場に接する機会も少なかったのが、これまでの実情でありました。このようなことから、このたび、私たち「官」の技術者にとって、本会のような勉強の場ができることになったことは全く幸いなことであります。そこで、今後、できるだけ多くの講習会、講演会、研究分科会等の活発な活動がなされ、参加の場が広げられるようお願いしたいと思います。

そして、また理論から実用化まで一貫してなされる場として、本会の発展を願うものです。

（九州地方建設局道路部道路計画第二課長）

アンケート調査結果

会報編集小委員会

はじめに

本会は、「設立までの歩み」にのべられているように、もともと若手技術者の小規模な勉強会として出発した。その後、関係者の努力と産・官・学からの強力な援助によって急成長し、当初予想した以上に立派な会となって、昨年11月発足した。約半年を経た現在、会の機構・諸規則等は整備され、会員個々の意欲も高まっているが、会の拡大がやや急であったため、肝腎の会全体としての目的意識・一体感等はまだまだ十分には成熟していない。今後、この大世帯をまとめ、その機能をフル回転させ、十分な成果をあげるためには、多数の会員から支持される方向で、公平無視の見地から会の運営を図ることが絶対の条件となる。

創刊号の発刊に当り、会報小委員会では「全会員が何らかのかたちで参加できる方法はないものか」と考え、また会の現状も考慮して、本年2月末、「会への希望」と題するアンケート調査を実施した。回答率はそれぞれⅠ種会員(個人)については、会員数159名に対し88名の55%、Ⅱ種会員(会社)では、83社に対し68社の82%であった。以下はその結果をまとめたものである。

回答者概観

第Ⅰ種会員：全回答者を住所、年齢および職種別に分けて、それぞれ図-1、2および3に示す。

回答者の66%は福岡県在住であり、残りのうち福岡県以外の九州各県が18%、九州以外が16%である。

年齢は働き盛りの30、40代が約80%で、頼もしい限りであるが、若手の育成という点では20代の会員も多くなって欲しい。

図-3に示した職種別の値を回答率に直すと、官公庁47%、学校関係44%に対し、民間企業70%となり、Ⅱ種会員も含めると企業関係者の意欲が

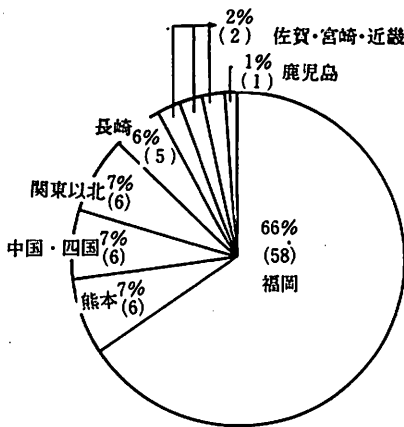


図-1 県別構成
(Ⅰ種会員)

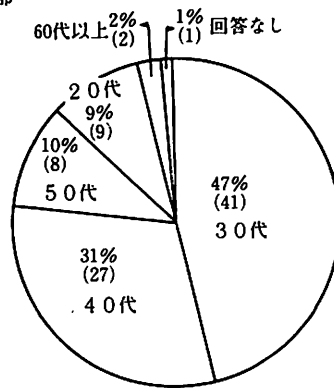


図-2 年齢構成
(Ⅰ種会員)

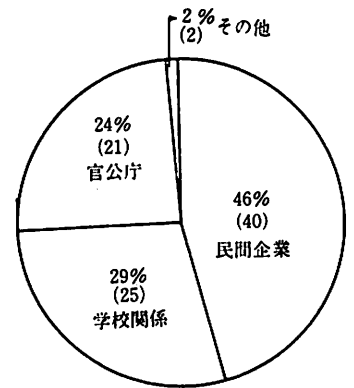


図-3 職種
(Ⅰ種会員)

感じられる。それに対し、学校関係者の回答率は最も低く、今後、活動の中心となるべきそれらの人々の積極的参加が望まれる。

民間企業の会員を会社の種類別に分けたものを図-4に示す。コンサルタント関係が最も多く、コンクリート関係、鋼構造関係、総合建設業と続いている。

第Ⅰ種会員：回答があった会社を種類別、本社の所在地別および九州における年間工事量別に分けてそれぞれ図-5、6および7に示す。会社の種類ではⅠ種会員では少なかった鋼構造関係が最も多く、続いて総合建設業、コンサルタント、コンクリート関係、一般会社の順となっている。本社が九州にある会社はわずか20%にすぎず、ほとんどが九州以外である。

九州での年間工事量は1～10億円の会社が最も多く50%、11～50億円および100億円以上がそれぞれ約20%、51～100億円が8%、1億円未満3%となっている。

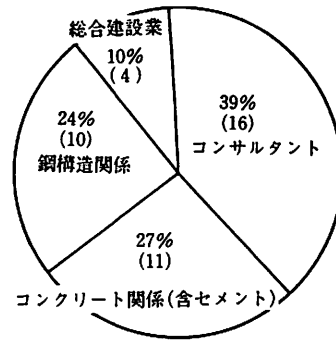


図-4 会社の種類別
(Ⅰ種会員・民間企業)

本会への希望

この質問に対する回答は各自記入してもらったため、多種多様な要望・意見があり、それらを正確にまとめて示すことは極めて困難と思われた。そこでまず、運営の方向に関するものと会の行う事業に関するものに大別し、さらにそれぞれを、かなりの独断をもって、図-8に示す13項目に分けてみた。

以下の図で黒ぬりは第Ⅰ種会員、斜線は第Ⅱ種会員を示す。数字的には多少差があるものの、両者はほとんど同じ傾向を示しており、Ⅰ種会員とⅡ種

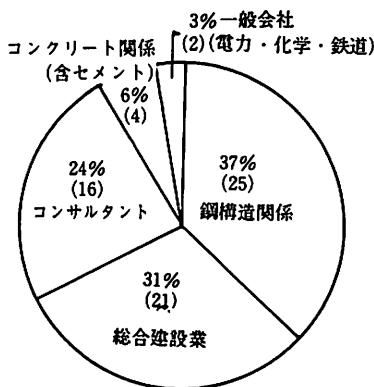


図-5 会社の種類別
(Ⅰ種会員)

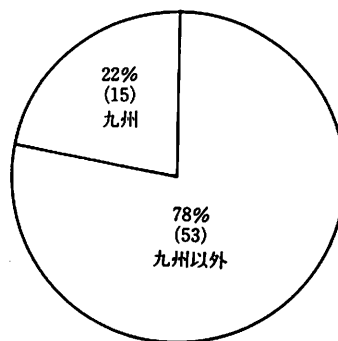


図-6 本社の所在地
(Ⅰ種会員)

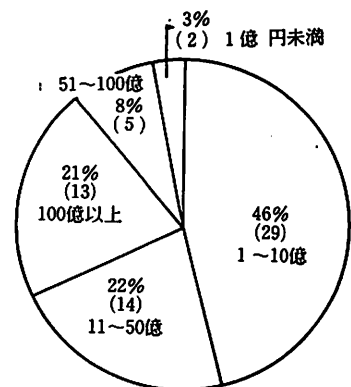


図-7 九州における年間工事量
(Ⅰ種会員)

員との別を意識しなくて良いと考えられる。

運営の方向としては“産・官・学の交流と協力”を望む声が強。 “情報の交換”にも同様な意味が含まれていると考えられるから、本会に加入することで技術者間の交流が深まれば、それだけでも十分会の存在意義があることになる。

“九州地方のレベルアップ”を図って欲しいという希望も多い。“九州地方特有な諸問題の解決”を望む意見も、多少ニュアンスは異なるが、これに加えている。第Ⅱ種会員ではこの項が最も多く、最近沈滞気味の九州のムードに、活性化を望む声も反映しているものと思われる。

“若い技術者の勉強の場”、“親しみ易い会”にして欲しいという要望はⅠ種会員に多い。先に示した図-2で明らかのように、今後、30、40代の会員が中心となって会が運営されることはまちがい

ないが、20代の会員がもっと増えるようなムード作りも必要であろう。“理論より實際を重視”との意見も少なくない。研究のシーズが主として現場にあることを考えれば、それらは会の方向づけに対する適切なアドバイスである。

会の行う事業に関しては、Ⅰ種、Ⅱ種会員を総合すると、“講演会・講習会の開催”、“見学会の実施”等の意見が多く、次いで“会報の発行”、“研究分科会の設置”等が続いている。第Ⅰ種会員のみでは“会報の発行”を望む声も最も強く、今回やや気張った創刊号を発刊するに至ったのも、その要望に応えたものである。会報その他で研究分科会で行った成果を発表して欲しいという意見もかなりあった。

それらに比べ、“論文集の発行”、“内外文献の紹介・出版”等の要望は少い。論文集については、

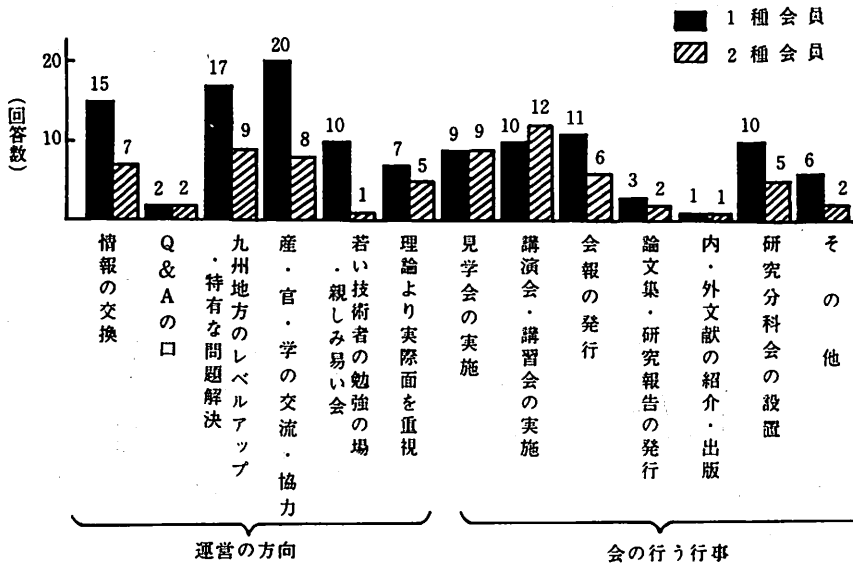


図-8 会への希望

一般に難解なものとのイメージが強く、工事報告程度でも可ということになれば、投稿希望者も増え、事情は多少異ってくるであろう。

研究テーマおよび講演会・講習会テーマ

研究テーマおよび講演会・講習会のテーマを図-9に示す。全般的に、これから研究・開発すべきテーマは前者として、一応公表できるレベルまで達しているテーマは後者としてとりあげられているようである。

研究テーマとしては「構造物の診断・補修・寿命判断」、「コンクリート構造物のひびわれ・耐久性」等が多い。それらはいずれも理論的に解決するこ

とが困難で、かつ、数多くの現場のデータを必要とするものである。図-8で「理論より実際を重視」という意見が比較的多かったのもうなずける。次いで、「新材料・施工法」、「設計法」が目立っている。前者には、新材料、施工等に関するほとんどのテーマを含めたが、材料関係のうち「耐候性鋼」および「コンクリートの塩害・アルカリ骨材反応等」に関するものは他の項目に含めている。「設計法」では限界状態設計法に関するものの希望が圧倒的に多かった。

続いて、「合成構造」、「景観工学・橋梁美学」「計算法・コンピュータープログラミング」の順となっている。「その他」の中では基礎構造関係が比

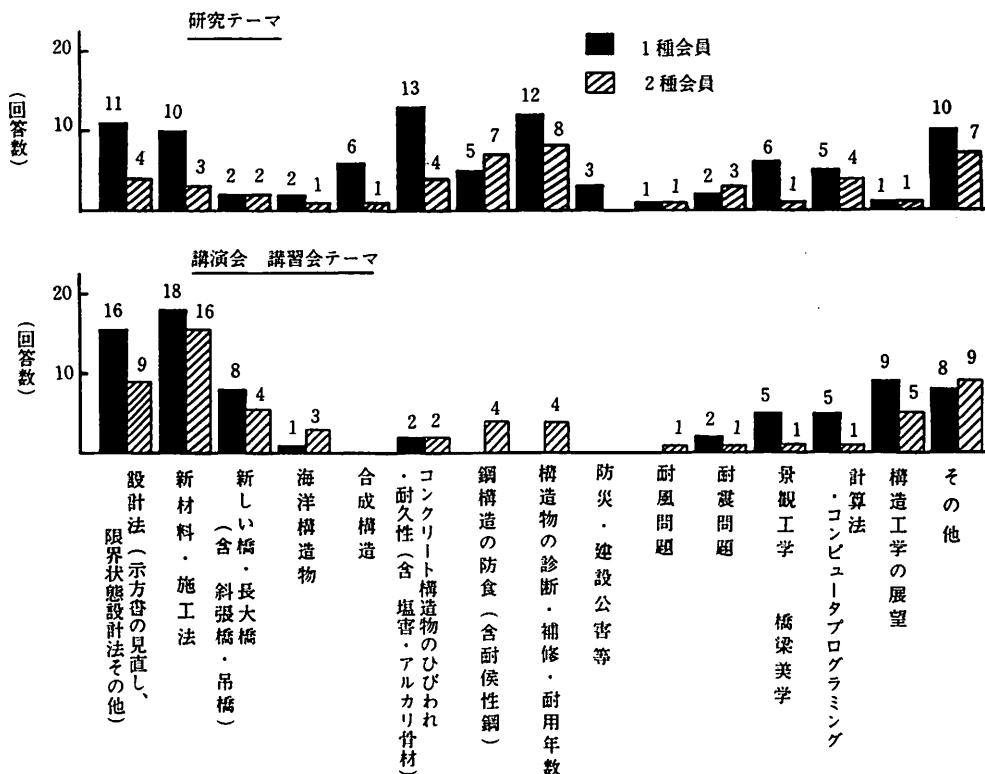


図-9 研究テーマおよび講演会・講習会テーマ

較的多く目についた。

講演会・講習会のテーマとしては、「新材料・施工法」、「設計法」等に関するものが多い。それらに関しては土木学会西部支部でも、毎年何らかの形で会が催されており、本会で実施する際は、その方との兼ね合いも考慮すべきであろう。次いで「構造工学の展望」、「新しい橋・長大橋」が目につく。講師には、外人または著名人をという意見があった。

「計算法・コンピュータプログラミング」、「景観工学・橋梁美学」等は研究および講演会・講習会の両方に比較的多く見られる。前者ではパソコンの利用に関するものが目についた。後者については、関連するものとして「その他」の中にも、「都市計画と構造物」、「橋梁のデザインコンペ」、「他の分野たとえば歴史・音楽等に関する講演」などの意見があり、構造物を景観の中の芸術としてとらえるソフトな方向が示されているように思う。

「その他」の中で、これまでのべた以外に小數で

はあるが鋭い指摘、独特な意見と思われるものをまとめて示しておく。

「会への希望」に関しては、「土木学会の活性化に協力」、「本会会員の土木学会各種委員会への参加」、「学術的研究の場だけの会にしないこと」、「無理をしないで出来るところから上げていく」、「高等学校へのPR」等、「研究テーマ・講演会・講習会テーマ」に関しては「TQCと構造物」、「産業用ロボット」、「事故・失敗の話」、「パネルディスカッション形式の講演会」、「市町村技術者の再教育」等。

あとがき

以上、アンケートの分析結果をのべてきたが、独断すぎる所、舌足らずの所等多々あるように思う。読後の感想、意見等を御寄せ頂ければ幸である。多くの会員から寄せられたこれらの期待、要望等が本会運営の起動力となり、また、かじとり役ともなることを確信している。

(1984. 4. 30)

●KABSEシンボルマークについて●

河地知木

上を向く▲に研究会の将来への発展を祈念した。橋梁のプリミティブな型を「山の吊橋」にイメージを求め、▲の山の中にKyushuのイニシャルKの上部を橋にみたてて組み入れた。(九州産業大学 芸術学部 デザイン学科 助教授)

[河地先生には表紙の装丁もお願い致しました。会のイメージアップにつながる斬新な案



KABSE

Kyushu Association for
Bridge and Structural
Engineering

九州橋梁・構造工学研究会

を作って頂き感謝致しております。会報編集小委員会]

九州各県および山口県

工事紹介・報告

〔八木山バイパス（一般国道201号）〕

＜実施場所＞ 福岡県粕屋郡篠栗町大字篠栗～嘉穂郡穂波町大字弁分

＜事業主体＞ 福岡県、粕屋町、嘉穂町、穂波町

＜工期＞ 昭和55年11月～60年3月

＜事業予算＞ 285億円

＜概要＞ 「八木山バイパス」は、福岡市を起点として筑豊を経て行橋市に至る一般国道201号線のうち、通称八木山峠と呼ばれる地形上の難所であつ交通上の隘路として、昭和52年より建設されているものである。

当区間は延長13.45Km、設計規格第3種2級設計速度60Km/hではあるが、橋梁13箇所、トンネル2箇所、最小曲線半径200m、最大縦断勾配5%、最急合成勾配9.3%と山岳地特有の道路である。

橋梁は支持、地形、平面線形によりデビダーク（1橋）トラス（1橋）PC・RC（6橋）鋼板桁（4橋）の型式を採用している。トンネルは地質により、底設導坑上部半断面掘削工法および上部半断面掘削とNATMの併用工法を採用している。

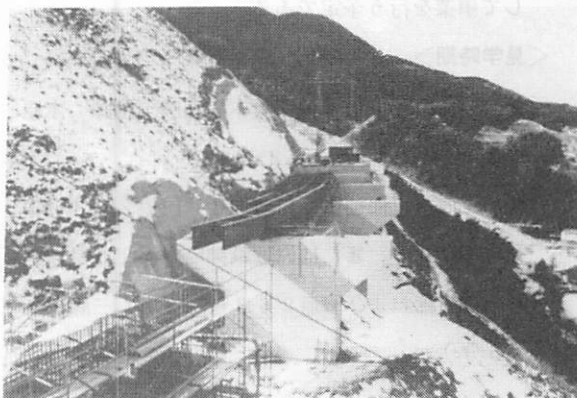
なお暫定2車線で昭和59年度末に供用開始の予定で現在各種構造物の完成の姿が着々と現われている。

＜見学期＞ PC橋は59年12月まで、鋼橋は

59年10月まで、舗装工は60年3月まで。

＜連絡先＞ 日本道路公団福岡建設局構造技術課
丸山課長代理または技術1課 古賀氏。
(電話092-721-1511)

＜交通＞ 国鉄篠栗線城戸駅下車



八木山バイパス橋梁工事

〔一般国道263号道路改良工事〕

（三瀬トンネル）

＜実施場所＞ 佐賀県神埼郡三瀬村～福岡県早良区早良

＜事業主体＞ 佐賀県、福岡市、佐賀県道路公社

＜工期＞ 昭和54年度～昭和61年度

＜事業予算＞ 83億8600万円

＜概要＞ 国道263号は、福岡市と佐賀市を結ぶ主要な幹線道路である。ところが本路線は、福岡、佐賀両県の県境の背振山中腹の三瀬峠（標高580m）を越えているため、急カーブ、急勾配の連続で交通のあい路となっているばかりでな

く、冬季には積雪、凍結による交通規制がしばしば行なわれている。

これらの問題を解消するため、佐賀県、福岡市で改良工事に着手し、昭和56年度よりトンネル本体工事に着手した。このトンネルは延長2407m巾員9mで完成後は九州でも長大なものである。トンネルの工法としては、湧水が多いので底設導坑先進掘削工法を採用した。

尚、昭和59年度後半よりは、有料道路事業として事業を行う予定である。

〈見学時期〉 8月中旬を除いていつでも可

〈連絡先〉 佐賀県神埼土木事務所工務課 木原係長（電話0952-52-3187）

〈交通〉 福岡市西新方面より国道263号線を車で30分、または佐賀県神埼方面より県道三瀬-神埼線および国道263号線を車（三瀬より15分）



三瀬トンネル

〔耶馬溪ダム〕

〈実施場所〉 大分県下毛郡耶馬溪町大字柿坂

〈事業主体〉 建設省九州地方建設局

〈工期〉 昭和45年5月～60年3月

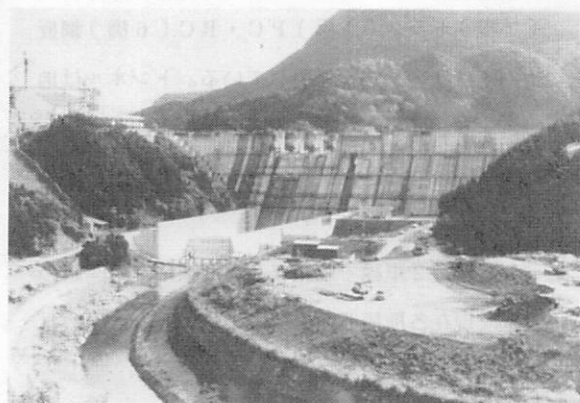
〈事業予算〉 約450億円

〈概要〉 九州地方建設局が昭和45年度より景勝地耶馬溪に建設を進めてきた耶馬溪ダムは、昨年末、堤頂部までのコンクリート打設を経て、放流設備などの整備を急いでいたが、ほぼ概成し去る3月18日に試験満水を開始した。

耶馬溪ダムは、高さ62m、堤頂長313m、堤体積39.5万 m^3 、総貯水容量2330万 m^3 の重力式コンクリートダムで、洪水調節、流水の正常な機能の維持、北九州市の水道用水、大分県北の工業用水ならびに発電を目的としたダムである。

ダムサイトの地質は角礫岩で、重力式コンクリートダム建設地の地質としては概ね良好であったが、中央部に断層が走っており、グラウト処理などにより万全の対策を行った。

また、施工にあたっては、ダム地点が耶馬溪・日田・英彦山国定公園内に位置しており、また、ダムの真下に耶馬溪町の中心部があり、民家等に接近していることから、公害対策、環境保全、安全管理が大きな課題となり、細心の注意と万全の対応が要求された。



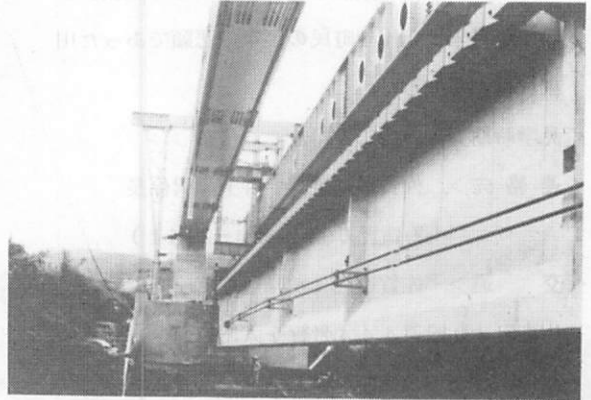
耶馬溪ダム

本ダムは60年3月に竣工予定であるが、地元耶馬溪町をはじめ北部九州地域の発展に大きく寄与するものと期待されている。

<見学時期> いつでも可。

<連絡先> 耶馬溪ダム工事事務所
(電話09795-4-3181)

<交通> 中津市より国道212号線を耶馬溪町までバスまたは車。



円座橋上部工事

[円座橋上部工事(橋梁整備事業)]

<実施場所> 大分県宇佐郡院内町大字御沓

<事業主体> 大分県

<工期> 昭和56年2月～56年10月

<事業予算> 1億3700万円

<概要> 本橋は大分県宇佐郡院内町大字御沓地内に位置し、院内町円座より中津市を結ぶ県道円座中津線の改築事業の一端として施工された駅館川の支川、恵良川をまたぐ橋梁である。構造形式は桁長 $L=51.9m$ 、桁高 $H=2.8m$ 、桁一本当重量 $W=15.88t$ (コンクリート容積 $V=63.52m^3$)であり、重エレクションガーダーによる抱込み方式による5主桁の架設を行なった。

橋長 $52.0m$ 、全幅員 $9.25m$ の一径間の橋架ではあるが、道路橋の単純桁としては長スパンであり、側面よりみる姿は雄大である。

<見学時期> いつでも可。

<連絡先> 大分県宇佐土木事務所工務課
(電話09783-2-1300)

<交通> 国道10号線宇佐市法鏡寺交差点より玖珠方面へ車で約20分。

[川副大橋]

<実施場所> 佐賀県佐賀郡川副町

<事業主体> 佐賀県

<工期> 昭和53年2月～58年11月

<事業予算> 24億5000万円

<概要> 川副大橋は、佐賀郡川副町大詫間地区と同町早津江地区とを結ぶため一級河川早津江川に架設された橋長 $695m$ の長大橋である。この交通は昔ながらの渡船であったが危険が大きいため、渡船の解消を目的に昭和53年2月から本橋の架橋に着手した。

本橋の架設位置は有明海特有の超軟弱地盤地帯であり、また海苔船等、漁船の往来が激しいため仮締切規模等の制約があり、これらのことを考慮して下部工基礎は鋼管矢板井筒とした。

そして上部工は地盤条件、航路幅、経済性及び美観等を検討し、5径間連続鋼床版箱桁とした。架設工法は現場条件を考慮し、種々検討の結果日本最大といわれる有明海の干満差を利用した大ブ

ロックによる台船架設とした。こうして昭和58年11月末地元川副町民の長年の悲願であった川副大橋が完成した。

<見学時期> いつでも可。

<連絡先> 佐賀県道路課 井上橋梁係長
(電話0952-24-2111)

<交通> 佐賀市内より県道佐賀一川副線、又川副町より国道444号線を大川方面へ、さらに県道大詫間一光法停車場線を車で合計30分。



川副大橋

〔九州縦貫自動車道(八代~人吉)〕

<実施場所> 熊本県八代市上片町~熊本県人吉市蟹作町

<事業主体> 日本道路公団

<工期> 昭和48年10月~63年3月

<事業予算> 約1780億円

<概要> 昭和58年3月に中国自動車道が開通し、いわゆる縦貫五道が概成したものの、我が国の高速道路のうち屈指の山岳道路であり技術的にも極めて困難な八代~人吉間は、これからが工事の最盛期となる。

当区間の路線延長38.5Kmのうち、工種延長比

率はトンネル43%、橋梁22%、土木35%と構造物主体の道路である。

橋梁数は55橋で、そのほとんどは斜面傾斜角30~50度の山腹部に建設される。この為橋梁の構造型式は、それぞれの地形、地質に合致する様、例えば基礎杭を用いない連続カルバート、ボックス橋、土圧を受けるラーメン栈道橋、充腹式コンクリート、アーチ橋、長大スパンを飛ぶ鋼トラス橋、プレストレスト・コンクリート橋等、多くのタイプが採用されている。

現在は工事の途についたばかりであるが、昭和60年代前半の供用を目指して全力を投入している。

<見学時期> 橋梁、トンネルは今年度後半が最適。

<連絡先> 日本道路公団福岡建設局構造技術課丸山課長代理(電話092-721-1511)

<交通> 九州自動車道八代インターより人吉方面へ国道219号沿線。また、人吉市より県道坂本一人吉線沿線。



コンクリートアーチ橋
(九州縦貫自動車道)

〔日南ダム〕

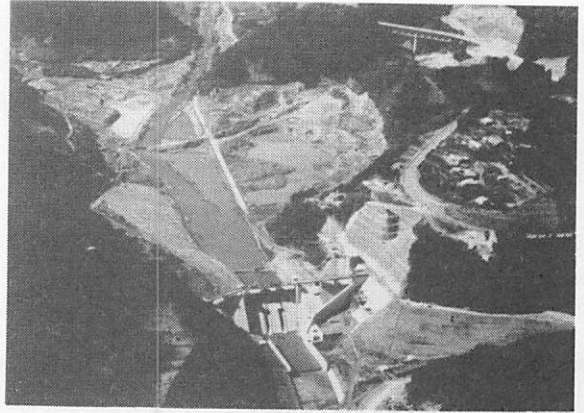
- ＜実施場所＞ 宮崎市日南市大字酒谷字名尾
＜事業主体＞ 宮崎県
＜工期＞ 昭和43年4月～60年3月
＜事業予算＞ 120億
＜概要＞ 日南ダムは、治水ダムとして建設されたもので、宮崎県内部最大の2級河川広渡川水系酒谷川の治水計画の一環をなしている。

型式は重力式コンクリートダムで、高さは47m、総貯水量600万 m^3 、有効貯水量464万 m^3 で、洪水調節、不特定用水の渇水補給を目的としている。

設計上の特色は、オリフィスに働く水頭を大きくし、洪水時初期放流量を増大させるために、制御堰と呼ばれる堰を設けていることにある。工事では断層が問題となったが、上流止水壁および下流押えコンクリートで対処し、ダムサイト左岸の透水層に対しては、グラウチングによる止水工法およびコンクリート止水壁により対処した。

種々の問題点を克服し、ダム本体工事は、昭和58年度で完了し、昭和59年11月から湛水開始予定である。

- ＜見学時期＞ 7月初旬が最適。
＜連絡先＞ 日南広瀬ダム建設事務所 甲斐所長
または東係長（電話09872-3-9629）
＜交通＞ 国鉄日南線鉄肥線または日南駅下車
国道220号線を都城方面へ車で15分。



日南ダム

〔鹿児島市河頭浄水場第三配水池〕

- ＜実施場所＞ 鹿児島県鹿児島市大迫町河頭浄水場内
＜事業主体＞ 鹿児島市
＜工期＞ 昭和56年9月～58年1月
＜事業予算＞ 4億4100万円
＜概要＞ 鹿児島市内はシラス台地が多くその

開発も次々に行なわれ生活可能地域が急速に拡大し、さらに住民の生活圏も大きく変わりつつある。

また、鹿児島市は夏期に入ると例年のように風向きが変わって厄介な桜島の降灰砂に悩まされ、市民の生活用水ばかりでなく、これを排除するための二次的な水の使用量が増加することとなる。したがって降灰時を含め上水の使用増量に対しての供給施設の増設と整備が重要な課題となっている。

これらの理由により鹿児島市水道局では、甲突川からの河頭取水場2万 m^3 /日を、さらに石井手取水場2万 m^3 /日とするために施設の増設を行い応力測定を施した円形プレストレストコンクリー

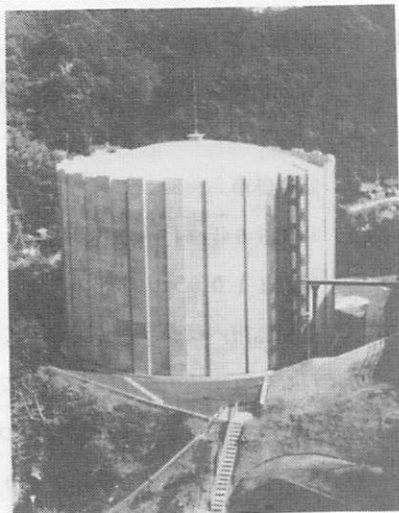
ト構造による有効容量1.6万 m^3 (内径3.2.0m、有効水深2.0.0m)の配水池が現場打抗基礎上に築造されたものである。

そしてその観は、甲突川沿に水に対する満足感を象徴するが如くどっしりとした雄姿を呈している。

〈見学時期〉 いつでも可。

〈連絡先〉 鹿児島市水道局河頭浄水場 西課長
(電話0992-38-2555)

〈交通〉 国鉄西鹿児島駅より川内方面へバス
(20分)河頭中学校前下車、徒歩5分。



鹿児島市河頭浄水場第三配水池

〔荒谷橋〕

〈実施場所〉 山口県山口市大字宮野上

〈事業主体〉 山口県

〈工期〉 昭和56年7月～57年12月

〈事業予算〉 2億9000万円

〈概要〉 荒谷橋は、山口市大字宮野上地内に樫野川総合開発事業の一環として計画されている荒谷ダム建設に伴う工事用道路(ダム完成後は林道荒谷線)が樫野川を横過する位置に架設された

もので、荒谷ダムの玄関口として重要な意義を有している。

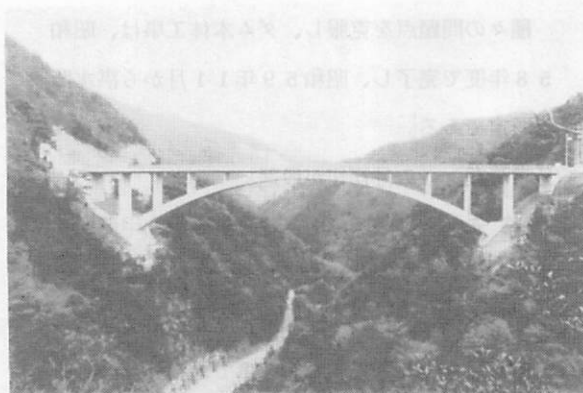
本橋架設位置付近は、標高200～215mで樫野川左岸は約45mの切り立った崖であり、右岸は約40度の急傾斜地となっており、橋面下60mのV字型谷を眼下にしている。

本橋は橋長115mで、構造型式として山口県では初めての鉄筋コンクリート開側固定アーチ橋(アーチ支間8.8m、ライズ1.3m)を採用した。また、アーチリブコンクリートの打設用支保工として、全国的にも施工例の少ない鋼トラスのアーチセントルを用い、セントルの変形による2次応力の発生を低減するため、アーチリブを12ブロックに分けてコンクリート打設を行った。

〈見学時期〉 いつでも可。

〈連絡先〉 山口県土木建築部樫野川総合開発事務所 山根俊一氏(電話0839-22-0036)

〈交通〉 国鉄山口線宮野下車、車で10分。



荒谷橋

長寿茶碗のご利益

大神 ハズエ

(延岡市在住 90才)

新しい土木技術を目指そうとする今、私達は土木の本質に立ち返り、謙虚な気持でスタートを切らねばならないと考えております。創刊号にあたり、あえて、地位も肩書きもなく、市井に埋もれた一老女の話を書き載せることに致しました。その理由は、この話の中に、失われかけている大切な土木の心を見出すことができると考えたからです。

90才という長寿に本会もあやかりたいものと祈っております。

(会報編集委員 出光 隆)

私は今年12月でもう90才になります。耳は少し遠いけど、目はよう見えます。わたしがやがて、60才になろうという頃、息子が延岡で橋を架ける会社を始めました。人手が足りなかったもんでそれから10年くらいの間に何度もあちこちの現場に、ご飯炊きの仕事に行きました。

祝子川(ほおりがわ・宮崎県)の奥の村の橋架け(ガーダー橋)がわたしの一番はじめに行った現場でした。村の人は、今はそんなことは云いませんが土方とかとびとかがくるから大騒動になるかも知れんというて、大そう用心しとったそうです。わたしたちは、工期が迫っていたもんで、皆んな夜も昼ももうて一生懸命働きました。なにせ、会社を始めたばかりなもんだから、中には中学校を出てすぐのものもあって、初めての晩、寝る時「ばあちゃん、ふとんがなが、どげんしたらよかろうか」と心配そうに云うてきました。仕方がないから、「そんならばあちゃんのふとんに一緒に寝るか」と云うて、寝かせてやりました。ほかに15、16才の子供が

何人か混じっておりました。はじめは用心しとった村の人も、橋架けの作業が始まると、だんだん面白くなって見にくるようになりました。「よいと/まいた/よいと/まいた」とかぐらさん(ろくろ)を使って、川の兩岸にケーブルを渡した時なんか、わざわざお弁当をもって見にきたお年寄りもありました。

機械が故障したり、けが人が出たり、いろんな苦労がありましたが、私達は予定通りに立派に橋を架け終りました。その時の皆んなの喜びようは、もう大変なもんで、私のように蔭の手伝いをしていただけのものでも、胸がいっぱいになって、ものが言えませんでした。

村の人は「ほんとに感心なもんじゃ、こっちが見習わんといかん」と云うて、大そうほめてくれました。

村では区長さんが水車で製材所をしとってでしたが、橋架けに来てくれたんじゃからと云うて、風呂や炊事やらの炊き木はただでもらっていました。工

事が終わって帰る時、お礼に行ったら、かえって向うから、広い立派な杉の板を何枚もおみやげにもらいました。あれから何十年か経ちますが、今でも机や飯台にして大事に使うとります。

高鍋(宮崎県)に国鉄の橋(トラス橋)を架けに行った時は、昼間は汽車が通るもんで、夜の仕事でした。「亀さん(苺の親方)、昼寝で夜仕事するなんて、こりゃ盗人と同じじゃないかね」と云うて皆んなで笑いました。わたしは朝早く帰って来る人達を風呂に入れて、御飯をたべさせるといかんから、寝る間ものうで働きました。

その頃は、終戦からしばらくたっていましたが、まだ、食糧を集めるのがえらい骨折りごとでした。高鍋の近くの何とかいう駅でしたか、りっぱな駅長さんがおられました。ヤミ米を買い出しに行つての帰り、夕方になってしもうて、わたしの外にも買出しの女の人が10人くらい駅裏の暗がりにかくれて汽車を待っていました。その時、駅長さんがわたし達のそばにきて「子供たちが腹をへらして待たせよう。ちょうど今、警察がおらんから早うこの貨車に乗って帰りなさい」というて、牛や馬やらが乗る貨物列車に乗せてもらいました。汽車が出るとき、皆んな駅長さんに手を合わせておがみました。

椎葉の下の方に、九電のダムのとびら(ゲート)の修理に行ったこともありました。真赤に焼いたリベットで、鉄板と鉄板をつなぐ仕事でしたが、福岡から来て、隣で仕事をしとる人達が、どうしたかげんか、毎日、仲間どうしのけんかをするもんで、工事が長引いて半年近くもかかりました。やっと完成して、試運転をしたときのことでした。ダムから水を川いっぱいザアッと流して、急に止めたら、

鮎があっちこっちの浅瀬にたくさん打ち上げられてしもうて……。ダムの下は禁漁区なもんで、駐在さんにどうしたらいいか聞きに行きました。その駐在さんは話の分る人で、「このままにしとつてもどうせ死んでしまうから、皆んなで取つてよかろう」ということになりました。さあそれからが大変で、村の子供も交じえて、大喜びで鮎を手づかみで取りました。バケツ20ばいもその上もあつたでしょうか。川岸で、たくさん枯木を集めて火をたいて、近所の人駐在さんも呼んで、皆んなで焼きたてのアツアツを腹一ぱい食べました。

瀬高(福岡県)にコンクリートの橋(PC橋)を架けに行ったこともありました。今までにない珍しい型の橋じゃそうで、大学から偉い先生方もみえて毎日、遅うまでいろんな試験があつておりました。

私達は村の分限者の家を宿に使わせてもらいました。村の人橋がかかると便利になるからと言うて、ずい分と親切にしてくれました。毎晩、仕事が終わると、わたし達のために大きなスイカが冷してあつて皆んなのどが乾いとるもんだから、「こりゃァ、うまいナァノ」というて、タネも出さんでたべていました。野菜なんかもなんきん(かぼちゃ)やなすびやといも(きつまいも)やらを近所の人くれるもんで、買ったことなんてほんとにありませんでした。

お盆の頃になると宿の近くに盆踊りのやぐらがたちました。うちの人達も村の人からさそわれて、踊りの輪の中に入って皆んな楽しそうに踊つておりました。その時、ふとんがないとべそをかいていた子が、村の若い娘さんから見染められました。正直な子じゃから、そののちも何年か、その人と手紙のや

りとりをしておったようです。けれども、橋を架けるのは渡り仕事ですから、時と所が離れば縁は薄くなるもので、可愛そうに、とうとう結ばれませんでした。

宿を借りた家のご夫婦はそろって70才を越えておられて、村からそのお祝いにりっぱな夫婦茶碗をもらうておいででした。橋が完成して、いよいよ現場を引きあげるといふ前の日、わたしはご夫婦からお座敷に呼ばれました。「あんたのように正直もんでよく働く人は初めてじゃ。この長寿茶碗をあげたいけど、大事なもらいもんで、やることができん。せめてこれでごちそうを食べて行っておくれなさいと、お赤飯にお頭つきのごちそうをしてもらいました。その上、次の日は温泉に連れていってもらうて仕事の疲れを流してから汽車に乗せてもらいました。

あれもこれも、ついこの前のことじゃったような気がいたします。あの長寿茶碗の御利益で私こんなに元気で長生きするとでしょうね。

まだまだ、あっちこっちたくさんの所に働きに行きました。どういふもんか、どこに行っても憎まれたことはのうて、皆なさんからようしてもらいました。いつも、ほんとうに人の為になる仕事をさせてもらっていたお蔭でしょうね。この年になってつくづく思うとですが、人の気にさわることをいったり、したりしなければ、悪い人はいるもんじゃありません。人間は正直に一生懸命働くのが一番いいことじゃないでしょうかね。

今年の正月から九十の手習いで俳句を始めました。娘が俳句のいろはかるたの本を買ってくれたもんでいま勉強しよるところです。(昭和59年3月3日)

この日だまりの暖かさよ

ひろがっておゆき

道を造り 橋をわたし

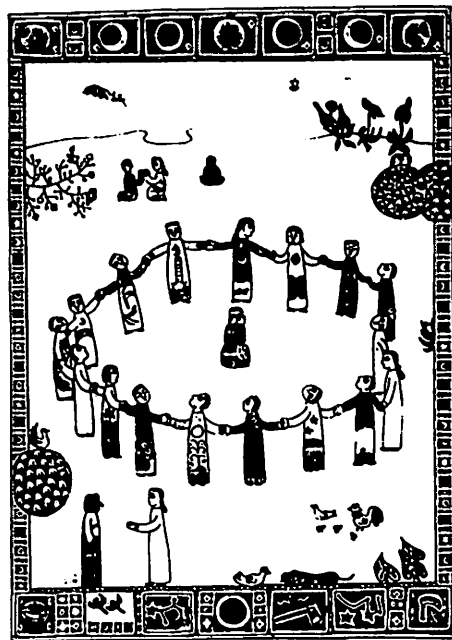
ひろがっておゆき

誰からも気づかれず

もてはやされなくても

静かにゆっくりと

ひろがっておゆき



かごめ かごめ 黒木郁朝 (延岡市在住)

表紙について

レオナルド・ダ・ビンチの ゴールデン・ホーン架橋計画

山本 宏

Leonardo da Vinci (1452-1519)

は、イタリアのフィレンツェ近郊のビンチ村に生まれた。

彼について、一般に知られていることは、「岩窟の聖母」、「聖アンナと聖母子」、「最後の晩餐」、「モナリザ」など、色彩のぼかしと遠近法を駆使し精密な構図のもとに人間の高貴と理想を画いた画家としてであり、「スフォルツァの騎士像」などを作った彫刻家としての彼である。しかし、一方では優れた科学者であり技術者であった。

彼は橋梁、港湾、水門、水車、灌漑設備、運河などをつくった。都市計画にも興味をもち大都市用の2階になった街路、下水工事計画などもおこなった。また驚くべき近代地質学的意想を持ち、他方では「太陽は動かない」、「重さのあるものは地球の中心に向かって最短距離を通過して落下する」とも書きのこしている。物理学、数学、天文学、生理学、生物学、医学、力学、機械学、土木工学、建築学などに卓越した知識をもった大天才で、各分野ともにルネッサンスの最高水準をしめし、近代科学技術の先駆者としての功績は大きい。これらの研究は5000ページを超える膨大なノートに残されている。

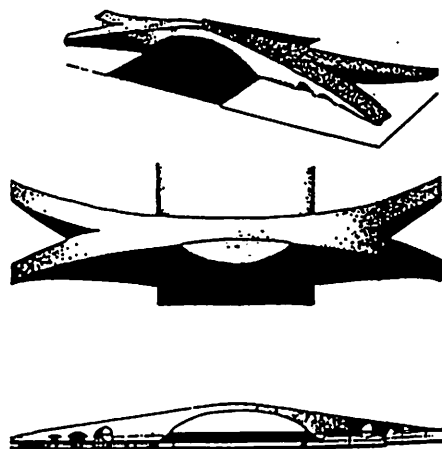
彼には一つの夢があった。イスタンブールのゴールデン・ホーンに橋を架けることである。彼はその着工をオスマン帝国のスルタンに進言した。表紙の

図は、彼のノートに残されたこの橋の平面図と立面図である。1150フィートに達する橋の寸法は、「ベラよりコンスタンチノーブルに至る橋。幅員40ブラッチョ、水面からの高さ70ブラッチョ、長さ600ブラッチョ、うち400ブラッチョは海上、200ブラッチョは陸上にあり、自らは橋台の役を果たす」

と書かれている。

下図は、ミラノ国立科学技術博物館にあるこの橋の模型である。D. F. シュテュッシはこれを詳しく調べて、工学的に実現可能としている。

レオナルドは多くの分野にわたって重大な発明や発見をした。しかし、甚だ残念なことには、それらは彼のノートの中に埋もれたままで、多くの人々が知るに至らなかった。彼は、あまりにも時代に先行しすぎていたのである。(九州工業大学教授)



会務報告

昨年11月、本会発足後直ちに会則第8条に準じて運営委員会が設けられました。

委員長 太田俊昭氏(九州大学)、副委員長 石井聖治氏(福岡市)、その他33名の委員で構成されております。

以後、活発な活動が続けられておりますが、その概要および今後の予定等は、運営委員会の中に設けられております8つの小委員会の動きを追うことによって、ご理解頂けるかと思えます。

以下に、それら小委員会の報告をまとめて示します。なお、各小委員会委員の名前・所属なども併せて記しております。(○印は代表幹事)

〔事業部〕

見学会小委員会 ○角 知憲(九州大)、江草拓(三菱重工)、中沢隆雄(宮崎大)、広瀬一郎(大分県)、峰 嘉彦(横河橋梁)

講演会小委員会 ○松下博通(九州大)、石山 范(第4港湾)、加来雄一(熊本県)、峰 嘉彦(横河橋梁)

講習会小委員会 ○大和竹史(福岡大)、天野雅之(北九州市)、井上哲典(佐賀県)、江草 拓(三菱重工)

事業部は、講演会、講習会、見学会などを企画運営するのを担当している。

アンケート調査結果では、これらの事業に対する

会員の皆様の要望が大であり、担当者一同も何とか皆様の希望に沿った内容の事業を企画しようと検討中です。

当面1年間に講演会2回、講習会1回、見学会1回程度を考えています。何か御希望の企画でもありましたら、事務局宛あるいは担当者宛に御連絡下さい。

なお、昭和59年度総会後に同じ会場で土木学会西部支部と共催で「土木施設の計画に関する講演会」を開催しますので多数御参加下さい。

〔定例会小委員会〕

○彦坂 熙(九州大)、北之 園宏(九地建)、小西范男(鹿島建設)

現行会則の役員構成、会議、議決事項および事業等についての不備を改めた会則改正案を運営委員会に提出し、役員会の審議を経て、昭和59年度総会に諮ることに致しました。なお、昭和59年度総会は、講演会および懇親会とあわせて、昭和59年6月15日に開催することを提案し、その準備に着手しております。多数のご出席をお願い致します。

〔研究連絡小委員会〕

○宮地宏吉(パシフィックコンサルタント)、大塚久哲(九州大)、河野秀治(富士ビーエスコンクリート)、町田健夫(新日鉄)、丸山峯男(道路公団) 村山隆之(福岡北九州高速道路公社)

本小委員会は、各種調査研究・受託研究などの事業を円滑・活発に推進するために、必要な活動を行うことを目的としております。したがって、研究活動における本会の外部への窓口、あるいは内部研究グループ間の調査連絡役としてご利用いただければ幸いです。

これまでの活動としては、分科会設置の運営委員会議決を受けての、分科会規定案の作成があげられます。

本小委員会では、8月31日まで、会員全てから分科会テーマを募集することに致しました。つきましては、所定の申し込み用紙に必要事項御記入の上事務局宛ご応募下さい。活発なご参加を期待しております。なお、用紙は事務局に用意しておりますので、御一報あり次第郵送致します。

本小委員会としては、会員諸兄の声を反映した運営を行い、当該事業を活発に推進したいと考えておりますので、ご意見、ご希望をお聞かせ下さいますようお願い致します。

〔論文集編集小委員会〕

○吉村 健(九産大)、青柳正文(福岡県)、後藤恵之輔(長崎大)、帆足又十郎(九電)

本研究会会則の第2条に添って、「官・業・学の各界の共同調査・研究・開発」が現在行なわれているものと思います。その成果を、会員の皆様をはじめ全国の土木技術者に広く知っていただくために、論文報告集の発行を計画しています。その様式等について、現在当小委員会で原案を作成中です。近日

中にこれを皆様に送付し、御意見を頂く予定ですので、御協力下さいますようお願いいたします。

〔会報編集小委員会〕

○出光 隆(九工大)、烏野 清(九州大)、佐竹芳郎(九地建)、日野伸一(山口大)

活動の概略は編集後記に書かせて頂きました。来年度も5月頃発行する予定です。ご意見、ご批判がございましたら事務局または上記の委員までご連絡下さいますようお願い致します。

〔事務局〕

○藤井利治(福岡市)、佐竹正行(構造技術センター)、今井富士夫(九州大)、小深田信昭(オリエンタルコンクリート)

予算執行と各小委員会に属さない雑務の処理班があります。58年度は、すべて初めての経験でありアルバイトの活用ができず幹事自らが処理せざるを得ず苦慮しました。

会費の納入は、予測したよりありましたが、未納の方については早急に納入していただくようお願い致します。

九州橋梁・構造工学研究会とはなんなのかと問い合わせが多くありました。59年度は、会報・論文集の発行、分科会活動・講演会等の活動を活発に行ない、実のある研究会とすべく努力してまいります。

なお、会員数は現在、Ⅰ種会員225名、Ⅱ種会員111社となっておりますが、会員の拡充についても、宜しくお願い致します。

九州橋梁・構造工学研究会会則

昭和58年11月11日

〔名 称〕

第 1 条 この会は、九州橋梁・構造工学研究会（以下、本会と略称する）という。

〔目 的〕

第 2 条 本会は、土木構造全般に関する諸問題を会員の専門もしくは職場にとらわれず、自由な立場で討議し、調査・研究・開発に参加あるいは協力することにより、会員相互の技術知識の向上と親睦を図り、土木工学の発展に寄与することを目的とする。

〔構成および会員種別〕

第 3 条 本会は、九州の関係団体および関係者をもって構成する。

ただし、九州以外からの参加者に対しては入会を妨げない。

本会の会員の種別は、次のとおりとする。

- 1) 正会員（第1種）： 本会の各種事業の主体となって活動する者。
- 2) 正会員（第2種）： 本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する団体に属する本会に対する代表者。
- 3) 賛 助 会 員 ： 本会の活動を支持する者。

〔役 員〕

第 4 条 本会には、会員の中から選出される次の役員を置き、会長はこの会を代表する。

会 長 1 名

副会長 若干名

監 事 2 名

幹事長 1 名

2. 会長、副会長、監事および幹事長は、正会員の推薦により選出する。
3. 顧問および相談役を置くことができ、会長がこれを指名する。
4. 役員任期は、2年とする。ただし、役員再任は拒まない。

〔事 業〕

第 5 条 本会は、第2条の目的を達成するための定例会を開催する。

また、必要に応じて講習会、講演会、見学会等の事業を行なう。

〔総 会〕

第 6 条 本会は、年 1 回の総会を開き、次の事項を審議し、出席会員の過半数をもって議決する。会長が総会を招集し、議長となる。

- 1) 会則の制定および改廃
- 2) 年間事業計画と報告
- 3) 予算、決算および会計監査報告
- 4) 会長、副会長、監事および幹事長の選出
- 5) その他

〔役 員 会〕

第 7 条 役員会は、会長、副会長、監事および幹事長をもって構成し、会長が招集する。

2. 役員会は、次の事項を審議する。

- 1) 事業計画および予算の承認
- 2) その他運営に関する重要事項

〔運 営〕

第 8 条 本会の運営は、幹事長および幹事長が指名した運営委員からなる運営委員会が当り、幹事長がこれを招集する。

2. 運営委員会は定例会を開催する。

3. 運営委員会は事業の実行のため小委員会を設置することができる。

〔会 費〕

第 9 条 正会員は、年会費を負担する。ただし、年会費は、

正会員（第 1 種）1,000 円、 正会員（第 2 種）1,030.000 円とする。

〔会計年度〕

第 10 条 本会の会計年度は、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

〔事務局〕

第 11 条 本会の事務局は、原則として運営委員が所属する団体内に置く。

附 則

この会則は、昭和 58 年 11 月 11 日より実施する。

会 員 名 簿

(昭和59年3月31日現在)



KABSE

Kyushu Association for
Bridge and Structural
Engineering

九州橋梁・構造工学研究会

正会員 (第1種)

	氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
ア	会田 忠義	山口大学工学部 建築工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31- 5100内253	橋梁工学
	青柳 正文	福岡県 土木部道路建設課	福岡市博多区東公園7番7号 〒812	092-651- 1111内4085	土 木
	秋吉 卓	熊本大学工学 土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44 2111	耐震工学
	安次嶺 清	パシフィックコンサル タツ(株)福岡支社	福岡市中央区大名2-11-19 (赤坂門ビル) 〒810	092-741- 1769	道路工学
	足立 俊一	(株)建設技術研究所 福岡支社技術課第2部	福岡市中央区渡辺通2-1-10 (十八福岡ビル) 〒810	092-714- 2211 内40	コンクリート 構造
	安部 邦弘	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
	天野 一彦	読売九州理工専門学校 土木工学科	北九州市小倉北区明和町1-1 〒802	093-531- 7081	コンクリート 工 学
	天野 雅之	北九州市都市計画局 高速鉄道建設部	鞍手郡鞍手町大字中山2768-64 (自宅) 〒807-13	09494-2- 2405	道路工学
	荒牧 軍治	佐賀大学理工学部 土木工学科	佐賀市本庄町1 〒840	0952-24- 5191内2688	構造工学
イ	池田 博之	日本道路公団 八代工事事務所	八代市本野町662-1 〒866	09653-5- 7181	
	池田 肇	横河工事(株)	東京都千代田区平河町2-7-1 〒102	03-263- 0431 内201	
	池山 秀男	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	土木工学
	石井 聖治	福岡市土木局道路部 道路計画課	福岡市中央区天神1-10-1 〒810	092-711- 4461	
	石川 信隆	防衛大学校 土木工学科	横須賀市走水1-10-20 〒239	0468-41- 3810内2361	構造力学 最適設計
	石倉 寛治		福岡市南区長住7-16-20 (自宅) 〒815	092-551- 7382	水工学
	石堂 稔	九州産業大学工学部 土木工学科	福岡市東区松香台2-327 〒813	092-681- 1831	土質工学
	石橋 治	第1復建(株) 設計一部	福岡市博多区駅南3丁目5-28 〒816	092-431- 0724	橋 梁
	井嶋 克志	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6丁目10-1 〒812	092-641- 1101内5186	構造物の 耐 震
	石村由美子	トキワ・シビル・ エンジニアリング	福岡市博多区諸岡4丁目28番12号 〒816	092-582- 8277	橋 梁

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
イ 石山 范	運輸省第4港湾建設局 博多港工事事務所	福岡市東区東浜2-2-36 〒812	092-651-9367	
伊勢田 哲也	長崎大学工学部 土木工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47-1111	土質工学
市川 紀一	日本道路公団福岡建設局 佐賀工事事務所	佐賀市高木瀬町大字高木 1476-1 〒840-01	0952-30-2511	
出光 隆	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871-1931 内275	コンクリート 工学
伊藤 整一	前田設計 福岡支店 技術部	福岡市南区大楠1丁目33番14号 (前田ビル) 〒815	092-521-6272	土 木
稲富 敏泰	福岡県 土木部道路建設課	福岡市博多区東公園7番7号 〒812	092-651-1111内4082	土 木
井上 朝登	福岡北九州高速道路公社 福岡事務所工務課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631-0121 内235	橋 梁
井上 哲典	佐賀県土木部 道路課	佐賀市城内1丁目1-59 〒840	0952-24-8105	
井上 美治	鉄建建設(株)福岡支店	福岡市中央区大名1丁目15-38 (福岡パレスビル) 〒810	092-712-8231	
今井 博昭	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
今井 富士夫	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101内5182	橋梁工学 塑性力学
今泉 安雄	日本道路公団福岡建設局 構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511 内284	
今西 直人	新日本製鐵(株)八幡製鉄所 設備部土建室	北九州市八幡東区枝光1丁目1-1 〒805	093-883-1111内5335	土木工学 一 般
ウ 鳥野 清	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101内5185	耐震工学
上田 哲	ピーエスコンクリート 福岡支店 土木部	福岡市博多区中洲5-6-20 (明治生命館内) 〒810	092-291-2244	土 木 (PC構造)
内田 勝士	福岡県 道路建設課	福岡市博多区東公園7-7 〒812 (福岡市早良区西新6丁目5-12) 内814	092-641-4498 092-851-3576	道 路
内谷 保	鹿児島工業高等専門学校 土木工学科	鹿児島県合良郡単人町真孝 1460-1 〒899-51	09954-2-2111 内320	構造工学
梅本 明宏	鉄奥村組九州支店 地下鉄箱崎工事務所	福岡市東区箱崎2-50-14 〒812	092-641-7846	
瓜生喜久雄	清水建設(株) 土木本部土木第一部	東京都小平市花小金井2-752-2 (自宅) 〒187	0424-65-1712	
エ 江崎 正敏	富士ピー・エス・コンクリート(株)	福岡市中央区天神2-14-2 (福岡証券ビル) 〒810	092-721-3475	プレストレスト コンクリート

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
エ 江崎 善愛	富士ピー・エス・コン クリート(株)	福岡市中央区天神2-14-2 (福岡証券ビル) 〒810	092-721- 3475	構造物
江本 幸雄	福岡大学工学部 土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871- 6631内2246	コンクリート 工学
オ 太田 俊昭	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641- 1101内5180	橋梁工学
太田 則行	日本道路公団 人吉工事事務所	人吉市宝来町字下町1340-2 〒868	09662-2- 2622	
大塚 茂俊	長崎県土木部 道路建設課	長崎市江戸町2-13 〒850	0958-24- 1111内3041	道路工学
大塚 久哲	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641- 1101内5181	構造力学 橋梁工学
大西 和栄	福岡大学理学部 数学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871- 6631	数値解析
大村 啓一	大成建設(株) 広島支店	広島県佐伯郡五日市町大字坪井 1415-3		
緒方 隆哉	福岡市役所土木局 道路部街路課	福岡市中央区天神1-10-1 〒810	092-711- 4469	
岡林 隆敏	長崎大学工学部 土木工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47- 1111内2711	土木構造学
岡本 良夫	日本鋼管(株) 名古屋営業所	名古屋市市中村区名駅3-28-12 〒450	052-561- 8611内305	基礎工学
奥田 尚弘	北九州市建設局 土木部街路課	北九州市小倉北区城内1-1 〒803	093-582- 2457	道路工学
鬼塚 克忠	佐賀大学理工学部 土木工学科	佐賀市本庄町1 〒840	0952-24- 5191内2690	土質工学
織戸 鐵太郎	オリエン特コンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	コンクリート 構造
カ 甲斐 栄一	西松建設(株) 九州支店	福岡市中央区薬院2-7-1 〒810	092-771- 3121	
片山 忠	運輸省第4港湾建設局 鹿児島港工事事務所	鹿児島市城南23-7 〒892	0992-23- 3296	港湾工学
加藤九州男	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871- 1931	土木構造 (耐風)
鹿庭 和史	(株)構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	092-471- 1655	
金光 宏	日本構造技術(株)	東京都中央区日本橋小舟町12-10 共同ビル翔留 〒103	03-666- 5411	橋梁工学
川井 優	建設省九州地方建設局 福岡国道工事事務所	福岡市東区名島3-24-10 〒813	092-681- 4731内201	道路工学

	氏 名	勤 務 先	勤 務 先 住 所 (連 絡 先)	TEL	専 門 分 野
カ	川上 圭二	新日本製鉄 建設開発技術部	東京都千代田区大手町2丁目6番3号 〒100	03-242- 4111 内66	基礎工学コン クリート工学
	川上 英樹	長大橋設計センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅東2丁目4番 17号 〒812	092-472- 3952	橋梁工事
	河野 秀治	富士ビー・エス・コン クリート(株)	福岡市中央区天神2-14-2 福岡証券ビル 〒810	092-721- 3484	プレストレスト コンクリート
キ	菊野日出男	横河工事(株) 大阪支店	大阪市西区西本町1-3-15 大阪建大ビル 〒550	06-533- 6711	鋼 橋
	北之園 宏	建設省九州地方建設局 道路部道路計画第二課	福岡市博多区博多駅東2-10-7 〒812	092-471- 6331	
	木本 護	建設省九州地方建設局 北九州国道工事事務所	北九州市小倉南区春ヶ丘10-10 〒802	093-951- 4331 内454	下水道 道 路
	清田 勝	佐賀大学理工学部 土木工学科	佐賀市本庄町1 〒840	0952-24- 5191内2693	環境計画学
	清原 秀紀	佛構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	092-471- 1655	土 木
ク	日下部岩正	佛構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	092-471- 1655	
	草野 光司	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
	楠井 徹治	ライト工業(株) 九州支店	福岡市博多区堅粕1-28-44 〒812	092-651- 4331 内60	基礎工
	久保 喜延	九州工業大学 土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871- 1931 内273	土木構造 (耐風)
	熊谷 義次	日本道路公団 八代工事事務所	八代市本野町662-1 〒866	09653-5- 7181	
	倉成 裕之	オリエンタルコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
	黒木 健実	福岡大学工学部 土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871- 6631	構造力学
コ	河野 宏康	福岡北九州市高速道路 公社建設部計画課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631- 3291 内302	振 動
	古賀 勝喜	佐賀大学理工学部 土木工学科	佐賀市本庄町1 〒840	0952-24- 5191内2693	構造工学
	木暮健一郎	運輸省第4港湾建設局 下関調査設計事務所	下関市竹崎町4-6-1 〒750	0832-31- 3341 内381	構造工学
	小坪 清真	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641- 1101内5184	土木構造学
	後藤 栄一	佛東京鉄骨橋梁製作所	東京都港区芝浦4丁目18-32	03-451- 1141	土 木

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
コ 後藤 恵之輔	長崎大学工学部 土木工学部	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47- 1111内2712	土質工学
後藤 茂夫	日本構造技術㈱	東京都中央区日本橋小舟町12-10 共同ビル堀留 〒103	03-666- 5411	構造解析
小西 范男	鹿島建設㈱九州支店	福岡市博多区博多駅前3-12-10 〒812	092-441- 0211	土木工学
小西 保則	長崎大学工学部 土木工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47- 1111内2709	橋梁工学
小深田 信昭	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4-1-18 サンビル 〒810	092-761- 6931 内66	プレストレスト コンクリート
小林 一郎	熊本大学 工学部土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44- 2111内3536	構造工学
小嶺 啓蔵	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
小山 峻	福岡県 土木部道路建設課	福岡市博多区東公園7-7 〒812	092-651- 1111内4085	土木工学
サ 齊藤 芳徳	基礎地盤コンサルタン ツ㈱福岡支社	福岡市早良区原2-16-7 〒814-01	092-831- 2511	土質工学
佐伯 信昭	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	土木工学
阪上 昌夫	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	土木工学
坂口 修	三井建設㈱九州支店	福岡市博多区博多駅前1-1-1 〒812	092-431- 0321	道路工学
坂田 敦彦	㈱日本構造橋梁研究所 大阪支社	大阪市北区芝田2-2-1 新梅田ビル 〒530	06-372- 3924	橋梁工学
坂田 隆博	㈱建設技術研究所 福岡支社	福岡市中央区渡辺通2-1-10 十八福岡ビル 〒810	092-714- 2211 内46	橋梁工学
崎元 達郎	熊本大学工学部 土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44- 2111	構造工学
佐竹 正行	㈱構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	092-471- 1655	土質および 基礎
佐竹 芳郎	建設省九州地方建設局 企画部企画課	福岡市博多区博多駅前2-10-7 〒812	092-471- 6331 内511	道路計画
坂手 貴志	日本道路公団福岡建設 局技術第2課	福岡市中央区天神2-13-7 長銀ビル 〒810	092-721- 1511 内279	
塩田 良一	日本構造橋梁研究所 設計第7課	東京都港区南青山5丁目12番4号 全葉連ビル 〒107	03-400- 9101	プレストレスト コンクリート
首藤 勝憲	福岡北九州高速道路公 社建設部計画課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631- 3291 内301	都市計画

氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
シ 城 秀夫	佛構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 〒818	092-471-1655	
白石 基雄	新日本製鉄(株) 建材開発技術部	東京都千代田区大手町2-6-3 〒100	03-242-4111内6670	土木工学
神 弘夫	本州四国連絡橋公団第 二建設局坂出工事事務所	香川県坂井市番ノ州町2-2 〒762	08774-68135 内391	橋梁工学
ス 薄 慶治	九州産業大学工学部 土木工学科	福岡市東区松香台2-3-27 〒813	092-681-1831 内472	橋梁工学
末永 昭紀	三井石油化学 建設資材営業部	神奈川県川崎市宮前区神木2-1-6 (自宅) 〒213	044-855-2782	土質工学
角 知憲	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101内5195	交通工学
セ 関 一毅	新日本製鉄(株) 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前3-2-1 〒812	092-471-2045	鋼橋梁
ソ 副島 勝	荒谷建設 コンサルタント	広島市中区江波西1丁目2-5 〒733	292-5481	橋 梁
添田 政司	福岡大学工学部 土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871-6631内2246	コンクリート 工 学
園田 敏矢	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101内5186	土木構造
杉 辰雄	(株)橋梁設計事務所 九州事務所	福岡市南区大楠1-30-21 〒815	092-522-0500	橋 梁
高須賀 裕	ピー・エス・コンクリート 福岡支店土木部設計課	福岡市博多区中洲5-6-20 明治生命館 〒810	092-291-2244	土木設計
タ 高瀬 義晴	大野コンクリート(株) 製造部	福岡市早良区大字田4-2-5-1 〒814-01	092-871-2736	
高西 照彦	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871-1931 内267	耐震工学
高橋 和雄	長崎大学工学部 土木工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-46-5781内2710	土木構造
高橋 司	ピー・エス・コンクリート 福岡支店土木部設計課	福岡市博多区中洲5-6-20 明治生命館 〒810	092-291-2244	土木設計
高山 俊一	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871-1931 内283	土木材料学
多田 忠	ピー・シー橋梁 福岡支店	福岡市中央区舞鶴1丁目2-8 セントラルビル2F 〒810	092-721-5500	プレストレスト コンクリート
田中実喜也	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-1-3-7 〒810	092-721-1511 内284	構 造
田原 賢二	日本道路公団 人吉工事事務所	人吉市宝来町字下町1-3-40-2 〒868	09662-4-2622	耐震工学

	氏 名	勤 務 先	勤 務 先 住 所 (連 絡 先)	TEL	専 門 分 野
ツ	筒井 寅吉	博多港開発㈱	福岡市西区姪浜町547(自宅) 〒814	092-891-8686	港 湾
テ	堤 一	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26-3155	耐震工学
	手嶋 和男	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
	手嶋 春樹	第1復建㈱ 設計一部	福岡市博多区駅南3丁目5-28 〒816	092-431-0724	橋 梁
ト	藤内 文夫	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
	徳田 裕一	極東工業㈱ 福岡支店 設計課	福岡市博多区博多駅前4-3-22 産恵ビル 〒812	092-473-7541	プレストレスト コンクリート
ナ	内藤 経一	㈱白石 福岡支店	福岡市中央区大名2-12-10 第2赤坂ビル 〒810	092-751-1437	
	中川 浩二	山口大学工学部 建設工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31-5100 内255	岩盤力学
	長崎 謙二	㈱千代田コンサルタン ト九州事務所	福岡市博多区綱場町9-28 博多蔵本ビル 〒812	092-271-5771	コンクリート 構造物
	中沢 隆雄	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26-3155 内243	コンクリート 構 造
	中須 誠	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511 内284	土質工学
	長友 文昭	本州四国連絡橋公団工 務第二工務第四課	横浜市緑区藤ヶ丘2-38-27 (自宅) 〒227	045-971-9244	港湾・空港
	中村 卓史	新日本製鉄㈱八幡製鉄 所 設備部土建室	北九州市八幡東区枝光1丁目1-1 〒805	093-883-1111内5335	土木工学
	中村 登是	第1復建㈱設計部	福岡市博多区博多駅南3丁目5-28 〒816	092-431-0724	橋 梁
	中村 昌弘	㈱福山コンサルタント 設計第一部	北九州市小倉北区片野新町1-11-4 〒802	093-931-2586	
	中村 宗正	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
	成富 勝	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6丁目10-1 〒812	092-641-1101内5186	構造物の 耐 震
	南里 明	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	コンクリート 工 学
	南里 隆幸	福岡市土木局 道路建設課	福岡市天神1丁目10-1 〒810	092-711-4466	
ニ	西田 巖	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511	

	氏 名	勤 務 先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
ニ	西元洋一郎	新日本開発工業(株) 九州事務所	福岡市博多区博多駅前3-19-5 博多石川ビル 〒812	092-471-7105	
ノ	納富 正樹	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
	野口 賀右	オリエンタルコンクリート(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	
	野口 宏一	九地建福岡国道工事 事務所調査課	福岡市東区名島3-24-10 〒813	092-681-4731	
ハ	服部 満	ピー・エス・コンクリート 福岡支店土木部設計課	福岡市博多区中洲5-6-20 明治生命館 〒810	092-291-2244	土木工務
	花田 久	富士ピーエスコンクリート(株)	福岡市中央区天神2-12-1 〒810	092-721-3484	PC構造
	浜田 純夫	山口大学工学部 土木工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31-5100 内506	コンクリート構 造合成構造
	原田 哲夫	長崎大学工学部 構造工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47-1111 内2704	コンクリート 工 学
	原田 初男	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511 内283	
	原田 昌秀	福岡北九州高速道路公 社北九州事務所工務課	北九州市小南区東篠崎3-1-1 〒802	093-922-6811 内303	土 木
	林田 司	明水エンジニアズ 九州支社 設計課	福岡市博多区祇園町8-13 第1プリンスビル3F 〒812	092-271-1444	基礎構造
ヒ	東 正	(株)オリエンタルコンサル タツ福岡支社	福岡市博多区博多駅前3-10-24 藤井ビル 〒812	092-411-6209	コンクリート 構造物
	日野 伸一	山口大学工学部 土木工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31-5100	コンクリート 工 学
	彦坂 照	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101 内5177	構造力学
	平井 一男	熊本大学工学部 土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44-2111	構造工学
	平田 卓	阪神高速道路公団大阪 第二建設部調査課	宝塚市千種4-9-30 B-103 (自宅) 〒665	0797-71-2700	道路計画
	平野喜三郎	大分工業高等専門学校 土木工学科	大分市牧1666 〒870-01	0975-58-0077 内451	コンクリート 工 学
	広瀬 一郎	大分県佐伯土木事務所 工務課二課二係	大分市牧7-4(自宅) 〒870	0975-58-5150	
フ	福屋 智亘	日本鋼管(株)建材条鋼 営業部	東京都千代田区丸の内1-1-2 〒100	03-212-7111 内2378	土質・基礎
	福山 俊弘	(株)福山コンサルタント 設計第一部	北九州市小倉北区片野新町1-11-4 〒802	093-931-2586	

	氏 名	勤 務 先	勤 務 先 住 所 (連 絡 先)	TEL	専 門 分 野
フ	藤井 利治	福岡市土木局道路部 道路建設課	福岡市中央区天神1-10-1 〒810	092-711-4463	
	藤岡 秀信	鹿島建設(株) 九州支店土木部	福岡市博多区博多駅前3-12-10 〒812	092-441-0211	土 木
	藤本 廣	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26-3155	土質工学
	藤本 良雄	富士ピーエスコンクリ ート(株)福岡支店	福岡市中央区天神2-14-2 福岡証券ビル 〒810	092-721-3484	プレストレスト コンクリート
	河田 邦彦	八代工業高等専門学校 土木建築工学科	熊本県八代市平山新町2627 〒866	0965-35-1611内294	土木構造
	古川 浩平	山口大学工学部 建設工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31-5100 内248	構造設計学 耐震工学
	古城 一省	八千代エンジニアリン グ(株)九州支店	福岡市中央区天神1-6-7 安田生命ビル7階 〒810	092-751-1431	ダ ム
	戸次 哲夫	サンコーコンサルタン ト(株)福岡支店	福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル 〒812	092-271-2903	
ホ	帆足又十郎	九州電力(株)	福岡市中央区渡辺通2-1-82 〒810	092-761-3031内3316	電力土木
	堀口 潔	(株)構造技術センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル	092-471-1655	
マ	前田 良刀	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721-1511 内283	構造力学
	牧角 龍憲	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101内5191	コンクリート 工 学
	益井 征夫	構造技術センター	東京都千代田区富士見2-4-6 (川崎市麻生区上麻生1573-22)	03-230-2941 044-966-3105	
	町田 健夫	新日本製鉄(株) 福岡営業所橋梁工事業	福岡市博多区博多駅前3-2-1 〒812	092-471-2072	鋼構造物
	真次 寛	福岡市役所土木局 道路建設課	筑紫野市大字塔ノ原493-1 (自宅) 〒818	092-923-7048	
	松尾 宏一	オリエンタルコンクリ ート福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 サンビル内 〒810	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
	松尾 芳郎	佐賀県土木部 道路課	佐賀市城内1丁目1-59 〒840	0952-24-8105	
	松下 貞義	東京エンジニアリング (株)	東京都中央区八丁堀4-12-4 〒104	03-553-5514	鋼構造 コンクリート
	松下 博通	九州大学工学部 土木工学科	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812	092-641-1101内5190	コンクリート 工 学
	松田 光弘	新日本開発工業(株) 九州事務所	福岡市博多区博多駅前3-19-5 博多石川ビル 〒812	092-471-7105	

	氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
マ	松田 浩	長崎大学工学部 構造工学科	長崎市文教町1-14 〒852	0958-47- 1111内2701	構造工学
	松永 周三	鹿島建設(株) 長崎営業所	長崎市栄町3-9 〒852	0958-23- 2435	土木工学
	松永文治郎	オリエンタルコンクリ -ト(株)福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	プレストレスト コンクリート
	松本 晃一	日本道路公団 人吉工事事務所	人吉市宝来町字下町1340-2 〒868	09662-4- 2622	
	松本 成男	宮崎県土木部長	宮崎市橋通東2-1 (宮崎市丸山2-28) 〒880 〒880	0985-24-1111 内2316 (0985-24-2790)	都市交通
	丸田 浩	鶴堀 内 組	佐世保市光町14-2 (自宅) 〒858	0956-48- 4395	設 計
	丸山 巖	大分工業高等専門学校 土木工学科	大分市大字牧1666 〒870-01	0975-58- 0077内451	コンクリート 工 学
	丸山 峯男	日本道路公団福岡建設 局構造技術課	福岡市中央区天神2-13-7 長銀ビル 〒810	092-721- 1511内283	橋梁設計
ミ	三池 亮次	熊本大学工学部 土木工学科	熊本市黒髪2-39-1 〒860	0963-44- 2111	構造工学
	三浦 房紀	山口大学工学部 建設工学科	宇部市常盤台 〒755	0836-31- 5100内383	耐震工学
	三浦 正昭	日本文理大学工学部 土木工学科	大分市大字一木 〒870-03	0975-92- 1600内293	土木材料鉄筋 コンクリート工学
	水上 義喜	福岡市役所土木局道路 部街路課	福岡市中央区天神1-10 〒810	092-711- 4471	
	水田 権作	富士ビーエスコンクリ -ト(株)	福岡市中央区天神2-14-2 福岡証券ビル 〒810	092-721- 3475	プレストレスト コンクリート
	水田 洋司	八代工業高等専門学校 土木建築工学科	熊本県八代市平山新町2627 〒866	0965-35- 1611内253	構造力学 振動学
	宮川 邦彦	九州産業大学工学部 土木工学科	福岡市東区松香台2-327 〒813	092-681- 1831内476	コンクリート 工 学
	宮崎 英紀	千代田化工建設ベトミン /モービルプロジェクト本部	横浜市鶴見区中央2-12-1 〒230	045-521- 1231内2750	
	宮地 宏古	パシフィックコンサル タンツ(株)福岡支社	福岡市中央区大名2-11-19 赤坂門ビル 〒810	092-741- 1761	橋梁工学
ム	村上 良丸	宮崎大学工学部 土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26- 3155	材料工学
	村山 隆之	福岡北九州高速道路公 社建設部計画課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631- 3291内304	
モ	毛利 一之	佐賀県土木部 道路課	佐賀市城内1丁目1-59 〒840	0952-24- 8105	

	氏名	勤務先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
モ	森 巖	福岡北九州高速道路公社北九州事務所工事課	北九州市小倉北区東篠崎3-1-1 〒802	093-922-6811	土 木
	森 匠二	福岡市役所土木局道路部街路課	福岡市中央区天神1-10-1 〒810	092-711-4469	
	森 愨久	極東工業㈱福岡支店設計課	福岡市博多区博多駅前4-3-22 産恵ビル 〒812	092-473-7541	プレストレスト コンクリート
	森 博人	日本道路公団八代工事事務所	八代市本野町662-1 〒866	09653-5-7181	
	森山 溶州	新日本製鉄㈱スラグ事業開発部	東京都杉並区西荻南2-12-19 (自宅) 〒167	03-332-4749	コンクリート
ヤ	山内勇喜男	鹿児島県土木部道路建設課	鹿児島市山下町14-15 〒892	0992-26-8111内3040	
	山尾 敏孝	熊本大学工学部土木工学科	熊本市黒髪2丁目39-1 〒860	0963-44-2111内3533	構造力学
	山川 武春		北九州市小倉南区徳力団地60-305 (自宅) 〒803	093-961-3114	道路・土質
	山口 一弘	国土庁水資源局水資源計画課	東京都千代田区霞が関1-2-2 〒100	03-583-8931 内363	水理・河川
	山崎 明	長大橋設計センター福岡事務所	福岡市博多区博多駅東2丁目4番 17号 〒812	092-472-3952	橋梁工学
	山崎 竹博	九州産業大学工学部土木工学科	福岡市東区松香台2-327 〒813	092-681-1831 内476	コンクリート 工 学
	山下 正寛	オリエンタルコンクリート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	土木工学
	大和 竹史	福岡大学工学部土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871-6631	コンクリート 工 学
	山登 武志	㈱建設技術研究所開発技術室	東京都中央区日本橋本町4-2 第9中央ビル 〒103	03-668-0451 内531	橋梁設計
	山本 典幸	福岡北九州高速道路公社	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631-3291 内300	
	山本 宏	九州工業大学開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871-1931 内272	構造力学 橋梁工学 橋梁美学
ユ	湯谷 功	オリエンタルコンクリート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761-6931	
ヨ	横田 漢	宮崎大学工学部土木工学科	宮崎市霧島1-1-1 〒880	0985-26-3155 内245	基礎工学 土木計画学
	吉崎 信之	福岡北九州高速道路公社技術管理課	福岡市東区東浜2-7-53 〒812	092-631-3291 内324	橋梁工学
	吉田 信夫	福岡大学工学部土木工学科	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-01	092-871-6631	土質力学 交通工学

	氏 名	勤 務 先	勤務先住所(連絡先)	TEL	専門分野
ヨ	吉村 健	九州産業大学工学部 土木工学科	福岡市東区松香台2-327 〒813	092-681- 1831 内473	耐風構造
	吉新 達夫	日本道路公団福岡建設 局技術第一課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721- 1511	
ワ	若槻 良行	日本道路公団福岡建設 局工務第一課	福岡市中央区天神2-13-7 〒810	092-721- 1511	
	渡辺 明	九州工業大学 開発土木工学科	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804	093-871- 1931 内274	コンクリート 工 学
	渡辺 宏明	オリエンタルコンクリ ート㈱福岡支店	福岡市中央区天神4丁目1-18 〒810	092-761- 6931	土木工学
	和田 敏雄	㈱建設技術研究所 福岡支社	福岡市中央区渡辺通2丁目1-10 十八福岡ビル 〒810	092-714- 2211	河川構造

正会員 (第2種)

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
ア 青木建設 福岡支店	福岡市博多区博多駅東1丁目1-25 (宝ビル) 〒812	小松 皓道	092-431-7512	
㈸ 浅沼組 福岡支店	福岡市博多区博多駅南1-14-8 〒812		092-411-0636 内 304	総合建設
安部工業所 福岡支店	福岡市博多区博多駅東1丁目9番1号 〒812	古畑美喜雄	092-441-1240	コンクリート構造物 (P. C)
アルス製作所	徳島市南田宮1丁目1-62 〒770	坂本 好	0886-31-2191	
飯田建設㈸	福岡市博多区東比恵2-15-25 〒812	飯田敏弘	092-441-3805	
石川島建材工業 ㈸	東京都中央区八重洲2-6-21 ローズベイ八重洲ビル 〒104	寺崎 勝	03-277-4375	
石川島播磨重工業 ㈸九州支社	福岡市中央区渡辺通2-1-82 〒810	木村博行	092-771-7241	
梅林建設㈸ 福岡支店	福岡市中央区大名1-4-1 NDビル(福岡支店) 〒810	竹中弘起	092-712-9111 内 27	施 工
大野コンクリート ㈸	福岡市早良区大字田425-1 〒814-01	大野雅由	092-871-2736	コンクリート二次 製品製造販売
大林組 福岡支店	福岡市博多区下川端町9番12号 福岡武田ビル 〒812	島本信義	092-271-5721	
㈸大本組 福岡支店	福岡市中央区舞鶴2-2-3 サンライフ第2ビル 〒810		092-771-6981	
岡崎工業㈸	北九州市八幡西区築地町16-1 (機工事業本部製造部) 〒806	川副 静城	093-631-1111 内 330	鋼構造物
㈸奥村組 九州支店	北九州市八幡東区山王2-19-1 〒805	小林五六	093-671-3131	総合建設業
オリエンタル コンクリート㈸	福岡市中央区天神4-1-18 サンビル 〒810	中西茂雄	092-761-6931	プレストレスト コンクリート
㈸オリエンタルコンサル タンツ 福岡支社	福岡市博多区博多駅前3-10-24 藤井ビル 〒812		092-411-6209	鋼構造 コンクリート
カ 鹿島建設㈸ 九州支店	福岡市博多区博多駅前3-12-10 〒812	瀬戸弘海	092-441-0211	総合建設業
片山鉄工所	大阪市大正区南恩加島6丁目2-21 〒551 福岡市中央区天神1-10-17 西日本ビル内九州営業所 〒810	佐伯 禮行	06-552-1231 (092-761-2362)	橋 梁

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
カ 川崎重工業 九州支社	福岡市博多区上呉服町10番1号 (博多三井ビル) 〒812	西村 駒 幸	092-271-8541	鋼 橋
川崎製鉄㈱ 九州営業所	福岡市中央区天神1丁目14-1 日本生命ビル 〒810	羽 辺 幸 司	092-711-1521	鋼構造物 鋼材全般
川鉄鉄構工業 福岡営業所	福岡市博多区博多駅中央街8番 36号 博多ビル 〒812	杉 浦 庫 蔵	092-474-0957	
川田建設㈱ 九州営業所	福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル 〒812	岡 崎 信 幸	092-474-0828	PSコンクリート プレビーム
川田工業㈱ 九州営業所	福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル 〒812	川 口 伸 一	092-431-7288	鋼橋・プレビ ーム製作施工
九州建設コンサル タント㈱	大分市大字新貝367 〒870		0975-51-6211	建設コンサル タント全般
九州電力㈱	福岡市中央区渡辺通2-1-82 〒810	(山 川)	092-761-3031 内 2312	
㈱橋梁コンサルタン ト福岡営業所	福岡市中央区警固2-13-2 島崎ビル 〒810		092-741-4038	
㈱橋梁設計事務 所 九州事務所	福岡市南区大楠1-30-21 〒815		092-522-0500	
㈱協和コンサル タantz	福岡市博多区築港本町5-1 (福岡支社) 〒812		092-271-5511	建設コンサル タント全般
極東工業㈱ 福岡支店	福岡市博多区博多駅前4-3-22 産慮ビル4F 〒812	奥 窪 和 夫	092-473-7541	プレストレスト コンクリート
㈱栗本鉄工所 九州支店	福岡市博多区博多駅南1-3-11 〒812		092-451-6621	橋梁上部工
㈱ケー・シー・ エス 西部事務所	福岡市博多区博多駅東1-18-1 新栄東ビル 〒812	宮 内 彬	092-472-4521	環境科学・地域 計画・交通計画
㈱建設企画 コンサルタント	福岡市博多区博多駅南3-4-24- 812 福岡営業所 〒812	福 住 隆 二	092-471-8936	土質基礎
㈱建設技術研究 所 福岡支社	福岡市中央区渡辺通2-1-10 十八福岡ビル 〒810		092-714-2211	
㈱構造技術センタ ー 福岡事務所	福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル 〒812	日 下 部 岩 正	092-471-1655	
㈱古賀建設	諫早市永昌東町6-10 〒854	古 賀 哲 郎	09572-2-2222	
㈱駒井鉄工所 福岡営業所	福岡市博多区博多駅東2-4-17 第6岡部ビル 〒812	内 村 幸 雄	092-441-3665	橋 梁
五洋建設㈱ 福岡支店	福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル別館 〒810	岩 松 正 憲	092-781-5151	土 木

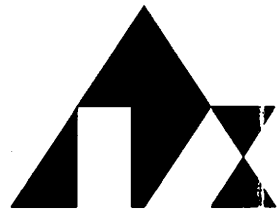
会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
サ 佐世保重工業(株) 鉄構設計部	佐世保市白岳町50-4 〒857-11	宮村重範 (大江 豊)	0956-33-7881	
桜田機械工業	千葉県市川市二俣新町21 桜田機械工業(株)技術開発室 〒272-01	鈴木康弘 (取締役 技術 開発室長)	0473-28-3145 内 250	鋼 構 造
佐藤鉄工(株) 福岡営業所	福岡市博多区比恵町2番1号 〒812	堀田貞夫	092-474-0421	
(株)佐藤組 福岡支社	福岡市南区清水1-2-32 〒815		092-541-0050	
佐藤工業(株) 九州支店	福岡市中央区赤坂2-6-11 〒810	浦田滋昭	092-771-7831	総合建設業
サンコーコンサル タント(株)福岡支社	福岡市博多区中洲中島町3-3 〒810	松藤 茂	092-271-2903	
ジーアンドエスエン 지니어リング(株) 九州支社	福岡市中央区舞鶴2-2-6 〒810	西 登喜夫 (村松)	092-761-5313	建設コンサル タント
(株)志多組	宮崎市高千穂通1-4-30 〒810	志多孝彦	0985-24-3151	
清水建設(株) 九州支店	福岡市中央区赤坂1-1-29 〒810	森井哲也	092-771-9151	建 築
(株)新構造技術 九州事務所	福岡市博多区博多駅前中央街8-36 博多ビル 〒812	風間三雄	092-451-5797	
新日本開発工業 (株)九州事務所	福岡市博多区博多駅前3-19-5 博多石川ビル 〒812	前田慶之助	092-471-7105	建設コンサル タント
新日本 コンクリート	福岡県粕屋郡志免町大字志免 90番地 〒811-22	杉山照夫 (高口政次)	092-935-1382	P C
新日本製鉄(株) 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前3-2-1 日生博多駅前ビル 〒812		092-471-2045	鋼構造物
新日本土木(株) 福岡支店	福岡市中央区平尾5-3-46 〒810	山本輝男	092-531-3231	
住友建設(株) 九州支店	福岡市中央区港1-3-1 〒810		092-761-1443	総合建設業 (特にコンク リート橋)
住友重機械工業 (株)九州営業所	福岡市中央区天神2-14-8 福岡天神センタービル 〒810	坂井 守	092-711-9421	
(株)銭高組 福岡支店	福岡市博多区店屋町2-16 〒812	武藤正男	092-291-3939	土木施工

	会 社 名	連 絡 先	代 表 者 (連 絡 者)	TEL	専 門 分 野
サ	㈱総合技術 コンサルタント 福岡営業所	福岡市中央区大名1-15-38 福岡パレスビル 〒810		092-712-0624	
タ	第一復建㈱	福岡市博多区博多駅南3-5-28 〒812	手島春樹	092-431-0724 内58	鋼構造
	大成建設㈱ 九州支店	福岡市中央区大手門1-2-22 〒810	寺尾善雄	092-771-1111 内350	
	大成道路㈱ 九州支社	福岡市博多区博多駅東2-17-5 モリメンビル内 〒812	小林弘泊	092-471-1271	
	㈱ダイヤコンサル タント 福岡支店	福岡市博多区博多駅前3-14-24 〒812	林 嘉宜	092-473-0821	地質部門
	瀧上工業㈱ 福岡営業所	福岡市中央区荒戸1丁目11番 6号 〒810	安藤正治	092-741-1253	鋼橋
	高田機工㈱ 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前2-19-29 〒812	束本圭介	092-473-0945	鋼構造
	㈱千代田コンサル タント九州事務所	福岡市博多区綱場町9-28 博多蔵本ビル 〒812	三島孝英	092-271-5771	建設 コンサルタント
	鉄建建設㈱ 福岡支店	福岡市中央区大名1-15-38 〒810	加治屋盛夫	092-712-8231	建設
	東亜建設工業㈱ 九州支店	福岡市博多区博多駅前3-5-7 〒812	鳥居一守	092-472-3712	総合建設業
	㈱東京建設コン サルタント 九州支店	福岡市中央区天神4丁目1-17 福岡飛栄ビル 〒810	堀川光治	092-761-5941	
	㈱東京鉄骨橋梁 製作所防府工場	山口県防府市大字浜方字鶴浜 283-1 〒747	小林久章	0835-23-6293	鋼構造物
	トビー工業㈱ 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前南6丁目 8番1号 〒812	小林孝明	092-451-1010	鋼構造物
	東洋建設㈱ 九州支店	福岡市中央区天神1-10-24 三和ビル 〒810		092-761-5541	
	飛鳥建設㈱ 福岡支店	福岡市中央区六本松3-11-28 〒810	今村太郎	092-771-3561 内55	
ナ	長大橋設計 センター 福岡事務所	福岡市博多区博多駅東2丁目 4番17号 〒812	川上英樹 (山崎 明)	092-472-3952	
	西日本技術開発 ㈱	福岡市中央区渡辺通1-1-1 〒810	田代信雄	092-781-2831	建設コンサル タント
	西日本鉄道㈱ 電車局 建設事務所	福岡市中央区天神2-2-68 〒810	松井寛人	092-761-0116	

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
ナ 日本構造橋梁 研究所	東京都港区南青山12-4 全業連ビル 〒107 (福岡市博多区駅前3-19-14) ビーエスビル 〒812	乙藤 憲一 (塩田良一) (鬼丸敏男)	03-400-9101 (092-472-7363)	
日本橋梁㈱	大阪市港区福崎2丁目1番30号 〒552	小野 精一 (橋梁本部設 計部)	06-571-6475 内 410	橋梁鉄骨鉄塔 の設計製作架 設
西鉄シーイー コンサルタント	福岡市渡辺通2丁目5-6 〒810	上原 昌夫	092-781-2441	鉄 道
西松建設㈱ 九州支店	福岡市中央区薬院2-7-1 〒810	甲斐 栄一	092-771-3121	
日東エンジニアリ ング㈱九州支店	福岡市中央区大手門3-4-3 東ビル 〒810	下釜 淳一郎	092-713-8861	
日特建設㈱ 福岡支店	福岡市中央区天神1-6-7 安田生命福岡ビル 〒810	西原 恒雄	092-781-6051	基礎工事
日本鋼管㈱ 大阪営業所 橋梁計画室	大阪市東区平野町5-1 大阪ガスビル 〒541	山田 友久	06-203-2371 内 346	鋼橋の設計・ 施工
日本構造技術㈱	東京都中央区日本橋小舟町12-10 共同ビル・堀留 〒103	後藤 茂男	03-666-5411	建設コンサル タント
日本国土開発㈱ 九州支店	福岡市博多区上呉服町10-1 博多三井ビル 〒812		092-281-2688	
日本鉄塔工業㈱ 福岡営業所	福岡市博多区博多駅前4-20-23 セントラルビル2階 〒812	河野 巖	092-472-7542	鋼構造 (橋梁)
日本道路㈱ 九州支店	福岡市南区大楠2-12-12 〒815	北間 和夫	092-521-0736	
日本ビー・エス・ コンクリート㈱ 福岡支店	福岡市中央区天神1-10-24 〒810	堺 政雄	092-781-5086	
ハ ㈱間 組 福岡支店	福岡市中央区薬院3-16-27 〒810	(金田 淳一)	092-531-5031 内 521	総合建設業
春本鉄工所	大阪市大正区南恩加島6丁目 20番34号 〒551 (福岡市博多区博多駅前3丁目 16番10号) 興産ビル3F 福岡営業所	倉橋 天彦	06-552-1461 (092-473-6027)	土木工学

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	TEL	専門分野
ハ バシフィックコン サルタantz(株) 福岡支社	福岡市中央区大名2-11-19 赤坂門ビル 〒810		092-741-1761	建設コンサル タantz
日立造船(株) 九州支社	福岡市博多区博多駅前3-2-1 〒812	西 利夫	092-441-1644	
ピーシー橋梁(株) 福岡支店	福岡市中央区舞鶴1丁目2番8号 〒810 (同 上) 設計課	松本成昭 (多田 忠)	092-721-5500	プレストレスト コンクリート
東日本鉄工(株) 福岡営業所	福岡市南区大楠1丁目35-19 〒815	福島 誠	092-522-0744	鋼 橋 (鋼構造物)
ピー・エス・コンクリ ート(株)福岡支店	福岡市博多区中洲5-6-20 (明治生命館) 〒810		092-291-2244	プレストレスト コンクリート
(株)福山コンサル タantz	北九州市小倉北区片野新町1-11 -4 〒802	福山俊郎	093-931-2586	
富士車輛(株)	大阪府南河内郡狭山町大字池尻 383番地 〒589	加藤竹治 (橋梁営業部)	内 312	橋梁立体駐車 場 鋼構造物
フジタ工業(株) 九州支店	福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル 〒812		092-411-9661	
富士ピ・エス・コン クリート(株)	福岡市中央区天神2-14-2 福岡証券ビル 〒810	水田権作 (河野秀治)	092-721-3475	プレストレスト コンクリート
ドービー建設工 業(株) 福岡支店	福岡市博多区博多駅前1-3-2 八重洲博多駅前ビル 〒812	吉田清次	092-441-9131	プレストレスト コンクリート
マ 前田設計(株) 福岡支店	福岡市南区大楠1-33-14 前田ビル 〒815		092-521-6272	
松尾建設(株)	佐賀市多布施1-4-27 〒840	松尾幹夫 (古賀良治)	0952-24-1181	
マグネ化学(株)	福岡市中央区西中洲2番11号	大串義之 (板東宏明)	092-741-3533	化学薬品
松尾橋梁(株)	大阪市大正区鶴町3丁目4-18 〒551 (福岡市博多区博多駅東2丁目 17-5) モリメンビル 福岡営業所 〒812	早水克行	06-552-1591 (092-451-6925)	
丸誠重工業(株) 九州営業所	福岡市博多区博多駅前4丁目4番 21号 長崎県産業会館 〒812	井手久夫	092-473-1921	鉄鋼構造物

会 社 名	連 絡 先	代 表 者 (連 絡 者)	TEL	専 門 分 野
三井建設(株) 九州支店土木部	福岡市博多区博多駅前1-1-1 〒812	高 浜 哲 郎	092-431-0321	総合建設業
三井造船(株) 九州支店	福岡市博多区博多駅前1丁目1番 1号 〒812	石 田 元 明	092-411-8111	
(株)宮地鉄工所 福岡営業所	福岡市中央区大名1丁目1番3号 石井ビル 〒810	佐 甲 雄 (矢 野 博 美)	092-751-1206	鋼 橋
宮地建設工業(株) 大阪支店	大阪市北区首根崎新地1丁目3-23 成晃ビル	中 上 達 生	06-344-4821	橋梁架設施工
三菱重工(株) 九州支店	福岡市博多区博多駅前2-2-1 福岡センタービル 〒812	池 田 専 造	092-441-3865	
南日本高圧 コンクリート(株)	鹿児島県川内立宮内町2123 〒895	下八尻鉄蔵 (吉 田 政 稔)	0996-22-5225	P C 橋 梁
(株)横河橋梁製作 所大阪支店 設計部	福岡市博多区博多駅前2-2-1 福岡センタービル11F (福岡営業所) 〒812	荒 井 利 男	092-431-6187	鋼構造物
ワ 若築建設(株) 九州支店	福岡市博多区中呉服町2-1 〒812	下 川 清 人	092-281-4511	
横河工事(株)	東京都千代田区平河町2-7-1 〒102	奥 富 稔 雄	03-263-0431	



KABSE

Kyushu Association for
Bridge and Structural
Engineering

九州橋梁・構造工学研究会